

# 弘前大学農学生命科学部学術報告

第15号

BULLETIN  
OF THE  
FACULTY OF AGRICULTURE AND  
LIFE SCIENCE  
HIROSAKI UNIVERSITY  
No.15

## 付 研究業績目録

2011年10月—2012年9月

Lists of Published Research Works of the Faculty of  
Agriculture and Life Science  
Hirosaki University  
2011 (October)–2012 (September)

弘前大学農学生命科学部

2013年2月

FACULTY OF AGRICULTURE AND LIFE SCIENCE  
HIROSAKI UNIVERSITY  
HIROSAKI 036-8561, JAPAN

February, 2013

# 弘前大学農学生命科学部学術報告

---

第15号

2013年2月

---

## 目 次

齋藤 渡・泉谷 眞実：積雪寒冷地における稲わらの処理・利用方式の特質 —青森県つがる市・弘前市における農家アンケート調査結果の分析—	1
平成23年度後期・平成24年度前期 あすなる賞	7
<hr/>	
研究業績目録（2011年10月—2012年9月）	13

# 積雪寒冷地における稲わらの処理・利用方式の特質

—青森県つがる市・弘前市における農家アンケート調査結果の分析—

斎藤 渡・泉谷 眞実

弘前大学農学生命科学部 環境・バイオマス研究室

(2012年10月26日受付)

## I. 課題と方法

環境問題への対応や資源の有効利用のためには、農村における未利用バイオマスの活用が重要となっている。稲作地帯においては毎年大量に発生する稲わらの処理・利用が大きな課題である。稲わらの利用においては地域差が激しく、特に積雪寒冷地では稲刈り後の天候が不安定であることと冬期間の積雪のため、稲刈り後、短期間に稲わらを処理・収集する必要がある、その利用の制約が高いと考えられる。

本論文の課題は、積雪寒冷地における稲わら利活用の促進方策を探るために、農家における処理・利用方式の特質と課題について、青森県日本海側地域における農家アンケート調査結果を用いて明らかにすることである。

分析に用いたアンケート調査データは、2010年12月に青森県日本海側に位置する弘前市とつがる市稲垣地区で行ったものである。弘前市がりんご作を主体とした果樹小規模稲作地帯として位置づけられるのに対して、つがる市稲垣地区は比較的大規模な稲作経営が存在する稲作地帯として位置づけられる(泉谷 [1])。そのため、積雪寒冷地の中でも農業構造の違いによって、稲わらの処理・利用方式にどのような違いがみられるのかについても検討を行う。

## II. つがる市稲垣地区農家アンケート結果の分析

### 1. 農家アンケートの概要

つがる市稲垣地区のアンケート調査は、つがる市役所農林水産部、つがるにしきた農協のご協力をいただき、2010年12月に稲垣地区の稲作農家(農協水稻部会員)541戸に対してアンケート票の配布を農協の広報誌と一緒に行った。回収は郵送で行い、回答数は95戸、回答率は17.6%であった。

アンケート回答者の水稻総作面積は363haであり(無回答の1戸を除く)、稲垣地区の総作付面積1,604ha(うち加工米226ha)の22.8%にあたる。回答者の平均作付

面積は3.9haであり、つがる市稲垣地区の平均3.3haと比較して約1.18倍である。アンケート回答者は稲垣地区における標準的な農家ということになる。

回答農家の経営主の年齢は、30歳未満0人(0%)、30~39歳4人(4%)、40~49歳10人(10%)、50~59歳30人(32%)、60~69歳35人(37%)、70歳以上16人(17%)である。60~69歳の占める割合が37%と最も多く、ついで50~59歳が32%、70歳以上も17%であり、60歳以上が半数以上の54%を占めている。

60歳以上が半数を占める一方で、39歳以下の占める割合が4%に過ぎないことから農家労働力の高齢化が顕著である。このことから、今後ますます稲わらの処理・利用方法が省力的な方向に向かうものと推察できる。

作付している販売作物は、①稲作のみ(+転作小麦)51戸(54%)、②稲作+野菜・花き39戸(41%)、③稲作+果樹3戸(3%)、④無回答2戸(2%)の順となっている。稲単作および稲作を中心とした複合経営が多くなっている。

### 2. 稲わら処理・利用の実態

まず、すき込みであるが、2010年の収穫期にすき込みを行った農家数は、①「全面積行った」農家が41戸(43%)であり、②「行わなかった」が26戸(27%)、③「半分より少なく行った」が16戸(17%)、④「半分より多く行った」が11戸(12%)、⑤無回答1戸(1%)の順であった。なんらかの形ですき込みを行った農家が、全体の72%に達する。稲垣地区においてすき込みは割合の高い処理方法であることが分かった。

つぎに焼却であるが、2010年の秋の焼却についてみると、①「しなかった」農家が64戸(67%)で圧倒的に多く、②「行ったが半分以下」が11戸(12%)、③「半分以上行った」が10戸(11%)、④「全面積行った」が4戸(4%)、⑤無回答が6戸(6%)であった。なんらかの形で焼却を行った農家が27%と少なからず存在している。

稲わらを他の農家等に販売・無償提供したことがあるかの問いに対して(これは過去の経験も含むので、すき

込み、焼却の設問のように2010年秋の状態のみを聞いているのではない)、①「無償で提供したことがある」農家が39戸(41%) (うち5戸は販売経験もある)で最も多く、ついで②「ない」が30戸(32%)、③「販売したことがある」が30戸(32%) (うち5戸は無償提供の経験もある)、④無回答が1戸であった。無償提供および販売経験がある農家割合がかなり高くなっている。

また、販売価格は、10aあたり1,000円が19戸と最も多く、ついで30aあたり1,000円が8戸、10aあたり300円が2戸、10aあたり370円が1戸となっている。およそ10a当たり1,000円の場合と30a当たり1,000円の場合に分けられる。30aの場合には、30a区画の圃場1枚当たりで計算しているとみられる。

主な販売・提供先を販売・無償提供したことのある64戸でみると(複数回答)、①畜産農家50戸(78%)が最も多く、②市民2戸(3%)、③野菜経営・果樹経営・その他が4戸(6%)、無回答が9戸となっている。稲垣地区内に約10件の畜産農家が存在している(後述)ことを考慮すれば、多くの稲わらは地元畜産農家によって収集されていると推察される。また、それ以外の提供先から分かることは、量的に少ないことから、自家利用と考えられる。量的には少ないが、寿幸園という老人クラブにおいて、稲わら細工の創作にも用いられている。

### 3. 水稲の作付面積別にみる稲わら処理・利用状況

ここでは稲わらの処理・利用状況を水稲作付面積の大きさ別でみていく。水稲作付規模の階層を第1表に示した(なお、各階層において項目ごとの構成比の値がラウンドの関係で合計が一致しないことがある)。

作付面積別に処理・利用状況をみていくと、合計ではすき込みの割合が最も高く、次いで無償・有償提供(をしたことがある)、焼却の順となっている。以下、項目ごとに面積と処理・利用状況の関係についてみていく。

#### (1) すき込み

すき込みでは、作付面積に比例する形でその割合も高くなる傾向にあり、経営規模との相関がみられる。つがる市において、すき込みが稲わらの処理方法として主流化しているといえるが、具体的には近年、圃場への化学肥料の多投の反省から「土づくり」が見直されてきており、稲わらの圃場への還元であるすき込みは堆肥に代わる有機物の投入として土づくりに有効利用されていることを示している。

しかし、稲わらすき込みによる土づくりには課題もある。米価の下落傾向の中、アンケートでは「手間とコストの問題」を指摘している農家がみられ、土づくりを行うことが米価に直接反映されるものではないために、負担感が増している農家もみられる。そのため、すき込みにかかる「燃料代への補助」や「プラウ」などの「すき込み専用機購入に対する助成」を行政に求める意見が

みられる。また、栽培技術の視点から稲の初期生育時における土壌中のメタン発酵による生育阻害を指摘する意見も多く、稲わらのすき込みにはデメリットも存在していることが分かる。

稲わらすき込みに関してアンケートの自由記述欄では、すき込みについて次のような意見がみられた。

第1に「今まですき込まない年はありません(29年)。稲作りの基本である土づくりが一番大事だと考えるからです」という意見に代表されるように、「土づくり」を目的にしていること。

第2に稲わらすき込みにはメリット・デメリットの両方が存在すること。前出のアンケート自由記述欄で、「毎年、稲わらすき込みを実施しているので、肥料の使用量が年々減ってきているのはうれしい事です」というメリットを表す意見がある一方、「次年度の春の代掻きの時の浮きワラ。田植え後のガス<sup>(注1)</sup>の発生」など、翌春の作業への影響を指摘する意見もみられた。

第3にすき込むためにはトラクターが必要であり、農家労働力の高齢化と機械の老朽化が同時に進行した場合、すき込み自体ができなくなり、他の処理・利用形態へ代替されることも予想される。

つがる市においてすき込みは、土づくりのために稲わらを有効利用する側面をもちつつも、個々の農家レベルでは状況次第では継続出来なくなる可能性もある。

第1表 稲作地帯における水稲作付規模別の処理・利用方式  
(単位: %)

水稲作付面積 (ha)	1.0 未満	1.0~ 3.0	3.0~ 5.0	5.0~ 10.0	10.0 以上	合計	無回答
回答戸数(戸)	17	32	19	18	8	94	1
すき込み実施	64.7	68.8	68.4	77.8	87.5	71.3	1
焼却実施	29.4	28.1	36.8	16.7	12.5	26.6	5
販売提供実施	35.3	71.9	78.9	66.7	100	68.1	1

資料: つがる市稲垣地区農家アンケート結果(2010年12月実施)。

注: 規模が不明の1戸を除く94戸の集計結果。無回答は外数。

#### (2) 焼却

焼却に関しては5.0ha未満での焼却実施割合が高くなっており、小規模な農家では3戸に1戸の割合で焼却が行われていることになる。

焼却処分されているのは、①圃場条件が極端に悪く、刈り取り後にトラクターなどの機械を入れることができないため、または、②圃場が極端に小さい場合や極端に遠く独立しているため、③粗飼料または畑マルチでの利用を予定していたが、天候や収集組織の都合で圃場に放置され、結果的に焼却せざるを得なくなったため、の3点がアンケートでは指摘されており、土質や地理的・人的要因によるところが大きい。特に③の粗飼料・畑マルチにみられるように、利用者と収集主体が違う場合には

有効利用される予定があるにも関わらず、結果的に焼却されるといったケースがみられる。

### (3) 販売・無償提供

無償・有償で提供したことがあるのは1.0ha未満を除く全階層で7割程度と高くなっているが、1.0ha未満層で3割程度と半分程度の割合になっている。零細な経営からの収集は、機械の関係等で難しい状況にあると考えられる。

稲垣地区では水田面積約2,000ha（うち、水稻作付け面積は1,200ha程度）に対して10戸の畜産農家が存在しており、収集組織も地区内に3集団ある。さらに地区外からも2～3集団参入している。「1集団あたりの収集可能面積が約200ha程度」であるから、天候さえ良ければ、地区内の稲わらの大部分は回収可能という計算になる<sup>(注2)</sup>。しかし、現実には圃場条件や立地条件、圃場のまとまりに加え、収集機械のコンディションや天候などの影響を考慮すると、「実際収集できている面積は1集団あたり100～150ha程度」<sup>(注3)</sup>であるという。

## 4. この数年で増えた方法と減った方法

稲わらの処理方法で、この数年で増えた方法と減った方法についてみると、無回答は15戸（18%）で回答者は80戸であった。

まず、増えた方法としては、①「すき込み」62戸（78%）、②「販売・無償提供」26戸（33%）、③「その他自分で使用」14戸（18%）、④「焼却」7戸（9%）の順となっている。すき込みが圧倒的に多いが、「その他自分で使用」のように堆肥化等で自ら利用する形態が増えていることに注目したい。

減った方法では、無回答が38戸（40%）で多くなっており、回答が57戸（60%）であるが、①「焼却」48戸（51%）、②「販売・無償提供」15戸（16%）、③「すき込み」6戸（6%）、④「その他自分で使用」2戸（2%）の順となっている。焼却の減少が大きくなっている。

このように、近年では、稲垣地区においては、すき込みの増加と焼却の減少という傾向がみられる。販売・無償提供は、増えた農家と減った農家の双方が一定数みられ、意見が分かれるが、すき込みの増加に伴い減少したと考えられる一方で、焼却から販売・無償提供への変化も進んでいると考えられる。さらに、稲わらの収集という形での「外部委託化」が同時に進行しているものと考えられる。

## 5. 今後、増やしたいと減らしたい方法（規模別）

「今後、稲わらの処理方法で増やしたい方法」をみると（無回答18戸、回答は77戸）、①「すき込み」46戸（48%）、②「販売・無償提供」41戸（43%）、③「その他自分で使用」17戸（18%）、④「焼却」1戸（1%）の順となっている。現実の増加状況と比較すると、希望

では「すき込み」がそれほど多くはなく、「販売・無償提供」が大きいことが分かる。

また、「減らしたい方法」としてあげられているのが（無回答49戸で高いが）、①「焼却」42戸（44%）、②「販売・無償提供」4件（4%）、③「すき込み」4戸（4%）、④「その他自分で使用」2戸（2%）の順となっており、やはり減らしたい方法として「焼却」は多くなっている。

## 6. 稲わら販売に関して収益をあげるための条件

最後に、「稲わら販売に関して収益を上げるための条件」をみると、①「ローバレーなどの機械への助成」28戸（29%）、②「稲わら販売価格の保障」22戸（23%）、③「分からない」20戸（21%）、④無回答20戸（21%）、⑤「収集と販売のマッチング」17戸（18%）、⑥「収集体制の構築」12戸（13%）、⑦「その他」3戸（3%）の順となっている。

稲垣地区において稲わらの収集は基本的に畜産農家が行っている。そのため、稲作農家は収集に対して実感をもてないのではないだろうか。そのことが、③の「分からない」が比較的多い要因であると考えられる。

## Ⅲ. 弘前市農家アンケート結果の分析

### 1. 農家アンケートの概要

つぎに、弘前市の農家アンケートについて検討していきたい。弘前市のアンケートは、2010年に弘前市役所のご協力を得て、市内の約1万戸の農家のうち、2,996戸に配布し、回答数は321戸、回答率は10.7%であった。ここでは、これら回答者の内、稲の作付を行っている210戸のデータを用いて分析を行う。

まず、回答者の販売作物をみると、無回答が2戸（1%）、「果樹のみ」10戸（5%）、「稲のみ」17戸（8%）、「野菜のみ」1戸（0.4%）、「果樹+稲」121戸（58%）、「稲+野菜」2戸（1%）、「果樹+稲+野菜」56戸（27%）、「果樹+稲+畜産」1戸（0.4%）であった。果樹と稲の複合経営が86%で最も多くなっている。

経営主の年齢は、無回答2戸（1%）、30歳未満0戸（0%）、30～39歳4戸（2%）、40～49歳16戸（8%）、50～59歳54戸（26%）、60～69歳80戸（38%）、70歳以上54戸（26%）であり、60歳以上が64%と高い割合を占めている。

稲の作付面積規模では（無回答1戸）、1ha未満が158戸（75%）で圧倒的に多く、1～2haが42戸（20%）、2～3haが4戸（2%）で、3ha以上は5戸（2%）にすぎず、2ha未満で95%と大部分をしめている。果樹地帯では小規模な稲作との複合経営が圧倒的である。

また、稲作に関しては複数の生産者組織が作業の受託を行っているが、稲の収穫作業を委託していることが確認出来た農家は49戸で、23%となっている。

## 2. 稲わら処理・利用の実態

つぎに、稲わらの処理・利用の実態について第2表からみていくと、回答210戸のうち、総計では最も多いのが「すき込み」で50%、つぎに「堆肥化」30%、「焼却」26%と続く。稲作地帯のつがる市と比較すると、焼却割合はほぼ同じ水準であるが、果樹地帯ではすき込みの割合が低く、堆肥化や畑作での利用が多くなっているのが特徴である。

「その他」の3戸では、「自分の果樹園に使用」、「畑へもってくる」、「稲わらフリーデンに提供」であった。

販売は1戸のみで、無償提供は比較的多く16%である。「他の農家に販売または無償提供の場合の相手先」をみると、回答は34戸で、無回答4戸(12%)、市民6戸(18%)、畜産経営5戸(15%)、野菜経営11戸(32%)、果樹経営7戸(21%)、その他4戸(12%)であり、稲作地帯のつがる市と比較すると、果樹地帯では野菜・果樹経営での利用割合が高くなっている。

同表から処理・利用方式を水稻作付面積規模別と稲収穫の委託の有無別に見ると、水稻作付面積規模では、1ha未満の零細層では「堆肥化」と「焼却」の双方の割合が高く、1ha以上の小規模層では「すき込み」の割合が7割近くになっている。つがる市の結果とあわせても、すき込みは水稻作付面積の大きさと密接な相関をもつと考えられる。

稲収穫の委託の有無別で見ると、「委託なし」では堆肥化の割合が高いのに対して、「委託あり」では「焼却」が4割近くに達している。

## 3. 稲わらの供給条件

つぎに、「仮に稲わらを供給するとした場合の供給条件」では、無回答26戸(12%)、「田まで取りに来れば有償で提供」8戸(4%)、「田まで取りに来れば無償で提供」124戸(59%)、「近場であれば運んで有償で提供」0戸(0%)、「近場であれば運んで無償で提供」1戸(0.5%)、「供給できない」45戸(21%)、その他9戸(4%)である。「田まで取りに来れば無償で提供」が59%で最も多く、ついで「供給できない」が21%で第2位となっている。

「取りに来れば有償で提供」の場合の価格は3戸から回答があったが、「1ロール500円」、「10a 1000円」、「営農

組合支払い分」としており、「運んで有償で提供」の場合の価格を提示している農家はいなかった。

また、「供給できない」理由は、自家利用が27戸(45戸の回答農家の60%)で最も多く、「栽培面積が少ないので、自家処理可能」、「全て自家農家でマルチ利用。足りないくらいです。」といったように、稲の面積が少なく供給量が少ないのに対して、畑作での利用での自家需要が存在することによって考えられる。利用も、すき込み、肥料化、マルチ利用等、さまざまな利用が行われている。

また、「すでに供給している」「行き先が決まっている」が2戸(4%)、「その他」が17戸(38%)である。「その他」では、①「団体の規則上鋤込むため。」「コンバインがカッター仕様である。」「稲刈りは業者に委託している。業者は細かく刻んでしまいたいようだ(能率)。一端刻んだわらを集めるには、また時間と機械が必要になる。」「切断しているので収納が出来ない」「細かく刻んでいるので集めるのが大変」といったように、収穫段階に規制されるもの、②「田んぼの中雨続きになると大変」「集める機械がない」「田までの便利が悪い」「道路が悪いため」「ほ場整備したところでも排水不良地は有効利用出来ない」のように圃場条件や機械保有などの資本装備に関するもの、③「人手もないし車もない」「農繁期で作業がむり」「果樹等の作業が重なる」といったように、労力や作業競合に制約されるものに分けられる。

## IV. おわりに

これまでの検討の結果、稲わらのすき込みや焼却等の「処理・利用方式」と作付規模や作付構成、作業体系の間には一定の相関関係があることが見いだされた。また、「処理・利用方式」は、稲作地帯(つがる市)と果樹地帯(弘前市)で異なる点がみられた。

このことは、稲わらの個々の処理・利用方法は、それぞれ独立して存在するのではなく構造化されており、それは基礎構造(経営の内容、産地の仕組み、土地条件、労働力条件等)によって規定されていることを示している。さらに処理・利用方式は、「需給調整プロセス」(泉

第2表 果樹地帯における稲わらの処理・利用方式

(単位：%)

		無回答	販売	無償提供	すき込み	堆肥化	マルチ利用	焼却	その他	総計(戸)
水稻作付面積	1ha未満	2.5	0.0	17.1	44.9	34.2	8.9	27.8	1.3	158
	1ha以上	2.0	2.0	11.8	66.7	17.6	11.8	21.6	2.0	51
稲収穫委託	委託なし	3.1	0.6	14.9	50.3	31.7	9.9	22.4	0.0	161
	委託あり	0.0	0.0	18.4	51.0	24.5	8.2	38.8	6.1	49
総計		2.4	0.5	15.7	50.5	30.0	9.5	26.2	1.4	210

資料：弘前市農家アンケート調査結果(2010年12月実施)。

注：水稻作付面積不明の1戸を除く。

谷 [4]) のあり方にも影響を受ける。そして、稲わらの場合、この規定性は、わら焼きが減少するにつれて強まってくると考えられる。

そのため、わら焼きが多い段階では稲わら利用の向上を図るために有効であった農業生産者の意識に訴える「啓蒙的手法」や、積極的な対応を行っている生産者を対象とした「環境補助金」対策のみでは、近年では限界があることを意味している。

以上の点を踏まえると、稲わらのさらなる利用向上を図るためには、地帯別および経営タイプ別にその規定要因を踏まえた上で、きめ細やかな経営対策が必要とされる段階にはいっているといえるだろう。

#### 注

- 1) 代掻き時、水に浮かぶ稲株や稲わらのこと。風下に堆積する。
- 2) 稲垣畜産組合長A氏からの聞き取り調査による(2011年10月実施)。
- 3) つがる市で稲わら収集を行っているB氏からの聞き取り調査による(2011年10月実施)。

#### 参考文献

- [1] 泉谷眞実：青森農業の地域性と変動. 北方新社, 2003.
- [2] 泉谷眞実：青森県における「農業排出物」の発生と利用. 弘大農学報5. 2003.
- [3] 泉谷眞実・村山成治・森久綱・杉村泰彦：地域未利用バイオマスの発生とリサイクル経路. 日本草地学会誌51 (2). 2005.
- [4] 泉谷眞実編著：エコフィードの活用促進—食品循環資源飼料化のリサイクル・チャンネル—. 農山漁村文化協会, 2010.
- [5] 泉谷眞実編著：未利用バイオマスとしてのりんご剪定枝の活用戦略 [増補改訂版]. 弘前大学出版会, 2011.

(付記) 本稿は、斎藤渡氏の2011年度弘前大学大学院農学生命科学研究科修士論文「積雪寒冷地における稲わら収集の不確実性とリサイクル・チャンネルの広域化」の1部を用いている。

## Characteristics of Method for Utilization of Rice Straw in Snowy Cold Region

Wataru SAITOU, Masami IZUMIYA

Laboratory of environment and biomass, Faculty of Agriculture and Life Science,  
Hiroshima University

(Received for publication October 26, 2012)

#### SUMMARY

The purpose of this paper is to clarify the characteristics of method for utilization of rice straw in snowy cold region.

In this paper, the following points were clarified. Firstly, the method for utilization of rice straw relate to agricultural business structure. Secondly, in order to promote the use of rice straw, it will be necessary to take measures finely for each type of management.

## 弘前大学農学生命科学部あすなる賞要項

### (設立目的)

1 弘前大学農学生命科学部あすなる賞（以下「あすなる賞」という）は、優れた生命科学における研究成果を学術集会で発表する弘前大学農学生命科学部および農学生命科学研究科の学生を顕彰することにより、学生の研究水準の向上を図ることを目的とする。

### (対象研究成果と応募資格)

- 2 対象となる研究成果と応募資格は次のとおりとする。
- ア 独創的な優れた生命科学における研究成果であること。
  - イ 研究は、弘前大学又はその関連する施設で行なわれたものであること。
  - ウ 応募者は、全国的または国際的レベルの学術集会で第一著者として発表する者（発表した者、または発表を予定する者）であること。

### (応募方法等)

3 学術賞の応募者は、次に挙げる書類を各6部（正1部、副5部）、弘前大学農学生命科学部長に提出する。

- (1) 申請書
- (2) 履歴書
- (3) 指導教員の推薦書  
(400字以内)
- (4) 学術集会発表要旨のコピー
- (5) 応募締切は、4月から9月までに開催される学会に関しては8月末日、10月から翌年の3月までに開催される学会に関しては1月末日とする。

### (受賞)

- 4 受賞については次のとおりとする。
- (1) 受賞者の選考は、あすなる賞選考委員会が行い、弘前大学農学生命科学研究科委員会で承認する。
  - (2) 選考は年2回行い、受賞者数はそれぞれ5名以内とする。
  - (3) 受賞者には本賞及び副賞を贈呈する。
  - (4) 受賞者の発表演題、著者名、発表学術集会名、開催期間、発表場所は「弘前大学農学生命科学部学術報告」に掲載するものとする。  
ただし、上記学術報告は学部ホームページおよび弘前大学学術情報リポジトリとして掲載されるため、演題を掲載できない場合は、申請時に「あすなる賞選考委員会」に申し出ること。
  - (5) 申請した学会で発表しなかった場合、または申請した学会発表で本賞以外から旅費等が支給された場合には、あすなる賞の決定を取り消すものとする。

### 附 則

- この要項は平成20年9月17日から施行する。
- この要項は平成21年2月18日から施行する。
- この要項は平成21年6月17日から施行する。
- この要項は平成24年6月20日から施行する。

### 附 記

本賞は、弘前大学農学生命科学部における生命科学研究水準の向上を願う、京都大学教授佐藤 矩行氏の御厚意により設立されたものである。

## あすなろ賞受賞者

## 平成23年度後期

内 村 ゆき美

水田土壌から分離した嫌気性アメーバの分類学的研究

第27回日本微生物生態学会大会, H23. 10. 8~H23. 10. 10, 京都大学

向 後 智 陽

有機性廃棄物より製造した堆肥への木炭の添加がコマツナの生育に及ぼす効果

日本園芸学会平成24年度春季大会, H24. 3. 28~H24. 3. 29, 大阪府立大学

佐 藤 真 悠

Phenotypic analysis of *C. elegans* mutant which shows the accumulation of te LSU-rRNAs

日本分子生物学会, H23. 12. 13~H23. 12. 16, パシフィコ横浜

松 澤 めぐみ

着色ダイズにおける種皮着色過程の解析

日本育種学会第121回講演会, H24. 3. 29~H24. 3. 30, 宇都宮大学

安 村 良 子

*Discosia*. spが生産する PhotinideA, Bの構造訂正と新規誘導体の単離

日本農芸化学会2012大会, H24. 3. 22~H24. 3. 26, 京都女子大学

## 平成24年度前期

橋 本 陽

Dinemasporium 属およびその関連属の分類学的再検討(2)

日本菌学会第56回大会, H24. 5. 25~H24. 5. 27, 岐阜大学

向 後 智 陽

果肉の赤いリンゴ‘紅の夢’,‘御所川原’の果肉着色に及ぼす光の影響

日本園芸学会平成24年度秋季大会, H24. 9. 22~H24. 9. 23, 福井県立大学

田 中 康 史

シロイヌナズナ cemA2の発現・機能解析

日本植物学会第76回大会, H24. 9. 15~H24. 9. 17, 兵庫県立大学

馬 場 彩 加

ミトコンドリア  $\mu$ -カルパイン阻害ペプチドによる網膜視細胞変性の保護

日本動物学会第83回大会, H24. 9. 13~H24. 9. 15, 大阪大学

弘前大学農学生命科学部

# 研究業績目録

2011年10月 – 2012年9月

Lists of Published Research Works of the Faculty of Agriculture and Life Science  
Hirosaki University  
2011 (October) – 2012 (September)

弘前大学農学生命科学部

2013年2月

Faculty of Agriculture and Life Science  
Hirosaki University  
Hirosaki 036 – 8561, Japan  
February, 2013

## は し が き

本号の「研究業績目録」には、2011年10月から2012年9月までの業績を掲載しました。業績の区分は、a－研究論文、b－学術図書、c－その他の著書・訳書、d－学会発表、e－調査・実験報告書、f－その他、とし、各自の申請に基づいています。各学科の教員組織（2012年9月30日現在）は以下の通りです。

### 生物学科

#### （基礎生物学コース）

葛西身延，黒尾正樹，福澤雅志，大河 浩，小林一也，笹部美知子，西野敦雄，吉田 渉

#### （生態環境コース）

佐原雄二，杉山修一，東 信行，石田 清，城田安幸，鳥丸 猛

### 分子生命科学科

#### （生命科学コース）

石黒誠一，菊池英明，橋本 勝，姫野倭太，牛田千里，高田 晃，畠山幸紀，栗田大輔

#### （応用生命コース）

大町鉄雄，宮入一夫，吉田 孝，坂元君年，園木和典，殿内暁夫

### 生物資源学科

#### （食料開発コース）

石川隆二，柏木明子，千田峰生，戸羽隆宏，原田竹雄，前多隼人

#### （生産環境コース）

青山正和，赤田辰治，佐野輝男，田中和明，比留間潔，藤田 隆，松山信彦

### 園芸農学科

#### （園芸農学コース）

荒川 修，鈴木裕之，張 樹槐，松崎正敏，川崎通夫，本多和茂，前田智雄，福地 博，  
田中紀充

#### （食農経済コース）

神田健策，渋谷長生，石塚哉史，泉谷眞実，武田共治，吉仲 怜

### 地域環境工学科

泉 完，工藤 明，佐々木長市，高橋照夫，檜垣大介，加藤 幸，萩原 守，藤崎浩幸，  
角野三好，遠藤 明

### 生物共生教育研究センター

伊藤大雄，姜 東鎮，松本和浩，房 家琛

## 目 次

生物学科	13
基礎生物学コース	13
生態環境コース	15
分子生命科学科	19
生命科学コース	19
応用生命コース	21
生物資源学科	24
食料開発コース	24
生産環境コース	27
園芸農学科	32
園芸農学コース	32
食農経済コース	36
地域環境工学科	38
生物共生教育研究センター	41

## 業 績 目 録

## 【生物学科】

## 【基礎生物学コース】

## 葛西 身延

- a-01. Kasai, M., Koide, K., Ichikawa, Y.: Effect of pot size on various characteristics related to photosynthetic matter production in soybean plants. *International Journal of Agronomy*, Article ID 751731, 7 pages, 2012.

## 黒尾 正樹

- a-01. Eda, M., H. Koike, M. Kuro-o, S. Mihara, H. Hasegawa, H. Higuchi: Inferring the ancient population structure of the vulnerable albatross *Phoebastria albatrus*, combining ancient DNA, stable isotope, and morphometric analyses of archaeological samples. *Conserv. Genet.*, 13: 143-151, 2012.
- a-02. Poyarkov, N. A. Jr., J. Che, M.-S. Min, M. Kuro-o, F. Yan, C. Li, K. Iizuka, D. R. Vieites: Review of the systematics, morphology and distribution of Asian Clawed Salamanders, genus *Onychodactylus* (Amphibia, Caudata: Hynobiidae), with the description of four new species. *Zootaxa*, 3465: 1-106, 2012.

## 福澤 雅志

- a-01. Senoo, H., Wang, H. Y., Araki, T., Williams, J. G., Fukuzawa, M: An orthologue of the Myelin-gene Regulatory Transcription Factor regulates *Dictyostelium* prestalk differentiation. *Int J Dev Biol*, 56, 325-334, 2012.
- b-01. 福澤雅志：細胞性粘菌：研究の新展開～モデル生物・創薬資源・バイオ 第6章分担執筆，2012年9月。
- d-01. 高松里依・近藤洋志・福澤雅志・鯨島正純：細胞性粘菌の G-アクチン巨大構造と新奇ミトコンドリアタンパク質。日本細胞性粘菌学会 第1回大会（大阪）2011. 11. 5.
- d-02. 福澤雅志：pstA 細胞の分化と機能について。日本細胞性粘菌学会 第1回大会（大阪）2011. 11. 5.
- d-03. Hiroshi Senoo, Jeffrey Williams, Masashi Fukuzawa: An orthologue of the Myelin-gene Regulatory Transcription Factor directs differentiation of a *Dictyostelium* prestalk cell sub-type. 日本細胞性粘菌学会 第1回大会（大阪）2011. 11. 5.
- d-04. Hiroshi Senoo, Masashi Fukuzawa. エピジェネティックな制御による，増殖と分化のバランス調節機構にかかわる遺伝子の探索。第45回日本発生物学会・細胞生物学会合同大会（神戸），2012年5月28日～31日。
- e-01. 細胞性粘菌のオーガナイザー形成と細胞分化にかかわる遺伝子の同定。基礎生物学研究所共同利用研究報告書，2011.

## 大河 浩

- d-01. 田中康史・川崎通夫・大河 浩：ラン色細菌プロトン輸送体タンパク質の植物への導入と導入植物の生長解析。第1回東北植物学会大会（盛岡）2011.
- d-02. 大久保星花・田中康史・安村良子・鬼頭 薫・大河 浩：トマト各器官の PEPC 発現に及ぼす塩ストレスの影響。第1回東北植物学会大会（盛岡）2011.
- d-03. 田中康史・鬼頭 薫・大河 浩：シロイヌナズナ *cemA2* の発現・機能解析。第76回日本植物学会（姫路）2012.

## 小林 一也

- a-01. Kobayashi, K. and Hoshi, M.: Sex-inducing effect of a hydrophilic fraction on reproductive switching in the planarian *Dugesia ryukyuensis*, *Front. Zool.* 8: 23, 2011.
- a-02. Nakagawa, H., Ishizu, H., Hasegawa, R., Kobayashi, K. and Matsumoto, M.: *Dr-piwi-1* gene is essential for germ cell specification during sexualization of the planarian *Dugesia ryukyuensis*. *Dev. Biol.* 361: 167-176, 2012.
- a-03. Nakagawa, H., Ishizu, H., Chinone, A., Kobayashi, K. and Matsumoto, M.: The *Dr-nanos* gene is essential for germ cell specification during sexualization of the planarian *Dugesia ryukyuensis*. *Int. J. Dev. Biol.* 56: 165-171, 2012.
- a-04. Kobayashi, K., Maezawa, T., Nakagawa, H. and Hoshi, M.: Existence of two sexual races in the planarian

- species switching between asexual and sexual reproduction. *Zool. Sci.* 29: 265-272, 2012.
- d-01. Kobayashi, K.: Tryptophan, one of sex-inducing substances in the sexual induction in the asexual form of the planarian *Dugesia ryukyuensis*. Planarian Regeneration Research Meeting in Kyoto, Kyoto, Japan, 2011. (招待講演)
- d-02. Maezawa, T., Tanaka, H., Nakagawa, H., Horiike, K. and Kobayashi, K.: D-amino acid oxidase represses the sexual induction in the planarian *Dugesia ryukyuensis*. Planarian Regeneration Research Meeting in Kyoto, Kyoto, Japan, 2011. (招待講演)
- d-03. Nakagawa, H., Maezawa, T., Honda, S., Umesono, Y., Orii, H., Agata, K. and Kobayashi, K.: Study of FGFR-related genes in sexual induction of the planarian *Dugesia ryukyuensis*: fissiparous capacity and ovarian development. Planarian Regeneration Research Meeting in Kyoto, Kyoto, Japan, 2011.
- d-04. Nishimura, Y., Tanaka, H., Maezawa, T., Ishida, T., Horiike, K. and Kobayashi, K.: Cloning and characterization of D-amino acid oxidase from planarian *Dugesia ryukyuensis*. Planarian Regeneration Research Meeting in Kyoto, Kyoto, Japan, 2011.
- d-05. Tanaka, H., Maezawa, T., Nishimura, Y., Yamamoto, A., Ishida, T., Horiike, K., and Kobayashi, K.: Functional characterization of D-amino acid oxidase from planarian *Dugesia ryukyuensis*: Non-Michaelis kinetics due to substrate activation. Planarian Regeneration Research Meeting in Kyoto, Kyoto, Japan, 2011.
- d-06. Maezawa, T., Tanaka, H., Kitamura, M., Nakagawa, H., Horiguchi, Y., Honda, S., Hirota, H. and Kobayashi, K.: Sex-inducing effects by 'Feeding': Switching from asexual to sexual reproduction in the planarian *Dugesia ryukyuensis*, The 58th/60th NIBB Conference, Okazaki, Japan, 2012. (招待講演)
- d-07. Nakagawa, H., Maezawa, T., Umesono, Y., Orii, H., Agata, K. and Kobayashi, K.: Study of FGFR-related genes in sexual induction of the planarian *Dugesia ryukyuensis*: fissiparous capacity and formation of reproductive organs. The 58th/60th NIBB Conference, Okazaki, Japan, 2012.
- d-08. Maezawa, T., Tanaka, H., Nakagawa, H., Horiike, K. and Kobayashi, K.: D-amino acid oxidase is involved in sexual induction in the planarian *Dugesia ryukyuensis*. The 58th/60th NIBB Conference, Okazaki, Japan, 2012.
- d-09. 前澤孝信・田中裕之・中川晴香・堀池喜八郎・小林一也：プラナリア有性化に関わる D-アミノ酸酸化酵素の機能解析. 日本動物学会 第83回大会, 大阪, 2012.
- d-10. 中川晴香・前澤孝信・堀口友里恵・小林一也：リュウキュウナミウズムシ有性化因子の進化的保存性. 日本動物学会 第83回大会, 大阪, 2012.
- d-11. 前澤孝信・田中裕之・北村 誠・中川晴香・堀口友里恵・本田紗綾子・廣田 洋・小林一也：プラナリアの生殖戦略転換機構：D-アミノ酸研究から見えてきたこと. 第8回 D-アミノ酸研究会, 滋賀, 2012. (招待講演)
- d-12. 前澤孝信・田中裕之・中川晴香・堀池喜八郎・小林一也：プラナリアにおける D-アミノ酸酸化酵素の機能解析. 第8回 D-アミノ酸研究会, 滋賀, 2012.

## 笹部 美知子

- a-01. Luo, L., Ando, S., Sasabe, M., Machida, C., Kurihara, D., Higashiyama, T., Machida, Y.: Arabidopsis ASYMMETRIC LEAVES2 protein required for leaf morphogenesis consistently forms speckles during mitosis of tobacco BY-2 cells via signals in its specific sequence. *J. Plant Res.* 125, 661-668 (2012)
- a-02. Dhonukshe, P., Weits, D., Cruz-Ramirez, A., Deinum, E., Tindemans, S., Kakar, K., Prasad, K., Mähönen, A.-P., Ambrose, C., Sasabe, M., Wachsmann, G., Luijten, M., Bennett, T., Machida, Y., Heidstra, R., Wasteneys, G., Mulder, B., Scheres, B.: Transcription factor-triggered auxin signaling-dependent module switches microtubule array orientation and cell division plane during formative cell divisions. *Cell* 149, 383-396 (2012)
- a-03. Sasabe, M., Boudolf, V., De Veylder, L., Inzé, D., Genschik, P., and Machida, Y.: Phosphorylation of a mitotic kinesin-like protein and a MAPKKK by cyclin-dependent kinases (CDKs) is involved in the transition to cytokinesis in plants. *Proc. Natl. Acad. Sci. USA* 108 (43), 17844-17849 (2011)
- d-01. 笹部美知子・南 明希・中野理恵・町田泰則：植物の細胞質分裂を制御するキネシン様タンパク質と相互作用する新奇プロテインホスファターゼの解析. 日本植物学会第76回大会(兵庫県立大学), 2012. 9. 15-17.
- d-02. 笹部美知子・中野理恵・南 明希・町田泰則：植物の細胞質分裂を制御する新しい因子の同定：CDKリン酸化タンパク質を脱リン酸化する新奇プロテインホスファターゼ. 第53回日本植物生理学会年会(京都産業大学), 2012. 3. 16-18.
- f-01. 笹部美知子：連続的なリン酸化を介した植物細胞質分裂の制御機構. 奈良先端技術大学院大学セミナー(奈良先

端技術大学院大学, バイオサイエンス科), 2012. 9. 25.

## 西野 敦雄

- a-01. Hirose, E., K. Nakashima, A. Nishino: Is there intracellular cellulose in the appendicularian tail epidermis? A tale of the adult tail of an invertebrate chordate. *Commun. Integr. Biol.*, 4: 768 – 771, 2011.
- a-02. Nakajo, K., A. Nishino, Y. Okamura, Y. Kubo: KCNQ1 subdomains involved in KCNE modulation revealed by an invertebrate KCNQ1 orthologue. *J. Gen. Physiol.*, 138: 521-535, 2011.
- a-03. 西野敦雄：脊索動物の遊泳運動：リズムックで可変的な進行波生成のための似て非なる二つの方法. 数理解析研究所講究録1796 「第8回生物数学の理論とその応用」京都大学数理解析研究所. pp. 85-92, 2012.
- b-01. 西野敦雄：「新口動物」, 「棘皮動物」, 「半索動物」. 『進化学事典』(進化学事典編集委員会編). 日本進化学会, 共立出版. 第10章のうちそれぞれ pp. 292-296, 303-305, 306-307.
- d-01. 西野敦雄・中島啓介・広瀬裕一：ホソサイヅチボヤ *Fritillaria haplostoma* における表皮の微細構造. 日本動物学会第83回大会(大阪大学豊中キャンパス), 2012.
- d-02. 西野敦雄：海の青にも染まず漂うオタマボヤ. 日本動物学会第83回大会, シンポジウム「数ミリ以下の動物学」(大阪大学豊中キャンパス), 2012.

## 吉田 渉

- a-01. Yoshida, W., Ishida, S., Ono, K.\*, Izumi, S.\*, K. Hasegawa\*: Developmental styles and larval morphology of hybridized sea cucumbers (Echinodermata: Holothuroidea). *Invertebrate Reproduction & Development*. 56: 249-259, 2012. (\*Aomori Fishers Technology Center)
- b-01. 吉田 渉：第7章 中国におけるナマコ養殖. p.115-128. ナマコ学 ―生物・産業・文化― 高橋明義・奥村誠 一共編 成山堂書店 2012.
- d-01. 吉田 渉：ナマコ ITS1 領域 INDEL による色彩変異解析 平成24年度日本水産学会春季大会, 東京海洋大学 2012.
- d-02. 石田幸子・吉田 渉・西谷信一郎\*・岡野大輔\*\*：アッケシカズメウズムシの分類学的位置の再考. 平成24年度日本動物学会東北支部大会. 山形大学 2012. (\*大阪府立箕面東高, \*\*岩手大連農)
- d-03. 佐藤信彦\*・我妻和弥・吉田 渉：マナマコ色彩変異体間のメラノソーム分布解析. 日本動物学会第83回大会 大阪大学 2012. (\*総研大・極地科学)
- d-04. 大道邦昭・前多隼人・平澤大輔\*・渋谷長生・吉田 渉：ナマコ各種抽出物の抗真菌活性と成分分析. 平成24年度日本水産学会秋季大会 水産大学校 2012. (\*(株)大豊)
- e-01. 吉田 渉：なまこ種苗の成長と貝殻魚礁効果 ―漁港内養殖試験―. ナマコ調査研究報告書― 青森市 2012.
- f-01. 吉田 渉：国内ナマコ増養殖の取組みと課題 全国なまこ会議 七尾市 2012.
- f-02. 吉田 渉：ナマコ種苗生産と養殖方法 五所川原市講演 2012.

## 【生態環境コース】

### 佐原 雄二

- a-01. 高谷 了・佐原雄二：溜池におけるカンムリカイツブリ (*Podiceps cristatus*) の給餌生態―青森市における観察例. 野生生物保護, 13: 19-32, 2012.
- d-01. Kanazawa, Y. and Y. Sawara: Foraging behavior of Yellow Bittern and seasonal and diel changes in an irrigation pond. 第5回 EAFES (東アジア生態学会連合) 大会(大津), 2012.
- d-02. Sawara, Y. and S. Takaya: Size-selective feeding of the Great Crested Grebe in Japan. *North American Ornithological Conference*. (Vancouver), 2012.
- d-03. 佐原雄二：溜池におけるヨシゴイ (*Ixobrychus sinensis*) の営巣生態. 日本鳥学会2012年度大会. (東京), 2012.
- d-04. 中濱翔太・佐原雄二：カンムリカイツブリのルースコロニー形成. 日本鳥学会2012年度大会. (東京), 2012.
- f-01. 佐原雄二：動物とヒトの交差点(新聞連載エッセイ)第1～10回. 陸奥新報, 2012.
- f-02. 佐原雄二：青森県・奥入瀬溪流. 自然保護, 528: 22-25, 2012.

**杉山 修一**

- a-01. Wagdi S, Fujimori M., Tase, K and Sugiyama S.: Heat tolerance and suppression of oxidative stress: Comparative analysis of C3 grass *Lolium perenne* populations. *Environmental and Experimental Botany* 78: 10-17.
- b-01. Hossain Z. and Sugiyama S.: Grassland Management and Structural Changes in Soil Microbial Communities In: *Grasslands: Types, Biodiversity and Impacts*. (Ed. WJ Zang) pp. 95-108. NOVA Publisher.

**東 信行**

- a-01. 東 信行・村元寛子・伊藤結美・河野冬樹・野田香織・笠井亮秀・渡邊 泉：小型魚類の生体内元素分析を用いたダム下流域における急激な物質循環変化の検証, 河川技術論文18, 405-410, 2012.
- a-02. 佐藤美紀雄・熊谷雅之・東 信行：青森県岩木左岸地区の農業用水路網におけるヤリタナゴの生活史, 農業農村工学会論文集279, 1-11, 2012.
- a-03. 泉 完・山村真弘・加藤 幸・東 信行：河川水を用いたヤマメ稚魚の尾部の動きと遊泳速度, 農業農村工学会論文集278, 99-107, 2012.
- a-04. 石崎陽子・野田香織・渡邊 泉・東 信行：微量元素分析によるダム湖内生息魚類の生息場所判別手法の検討, 土木学会論文集 G, 67, III\_311-III\_316, 2011.
- d-01. 坂有希子・渡邊 泉・東 信行：繁殖地判別を目的とした草原棲鳥類の羽毛微量元素分析, Joint Meeting of The 59th Annual Meeting of ESJ & The 5th EAFES International Congress.
- d-02. 工藤誠也・渡邊 泉・東 信行：生体内微量元素による外来種スグリコスカシバの発生地判別と移動分散評価, 第56回日本応用動物昆虫学会大会.
- d-03. 佐藤 臨・東 信行：ヨシ原の人為的管理に伴う地表面甲虫群集と食物網構造の変化, 第56回日本応用動物昆虫学会大会.
- d-04. 坂有希子・蛭名純一・作山宗樹・三上かつら・東 信行：草原棲鳥類4種の羽毛微量元素分析を用いた移動履歴解明手法の開発, 日本鳥学会2012年度大会.
- d-05. 笠原里恵・松井 晋・東 信行・山口恭弘・三上 修・上田恵介：農地環境と都市環境におけるスズメの巣内雛の食性の比較, 日本鳥学会2012年度大会.
- d-06. 森美由希・西海 功・樋口亜紀・東 信行・高木昌興：フクロウの地域性—声・遺伝子・体サイズで見る傾向—, 日本鳥学会2012年度大会.
- d-07. Inoue, Hiromoto, Kaori Noda, Izumi Watanabe, Nobuyuki Azuma: Use of trace elements in soft tissues of Largemouth bass (*Micropterus salmoides*) for identifying the pond habitats, SETAC Asia Pacific 2012.
- d-08. Kudo, Seiya, Izumi Watanabe, Nobuyuki Azuma: Environmental Variations of Trace Elements in Clearwing Moths and Assessing Adult Dispersal Patterns, SETAC Asia Pacific 2012.
- d-09. Kawano, Fuyuki, Kaori Noda, Hiroko Muramoto, Yuumi Itoh, Izumi Watanabe, Nobuyuki Azuma : Heavy metal pollution monitoring of the IWAKI river watershed in Aomori, Japan using Japanese fluvial sculpin, SETAC Asia Pacific 2012.
- d-10. Ban, Yukiko, Nozomu Sato, Honami Kamata, Katura Mikami, Juniti Ebina, Muneki Sakuyama, Kaori Noda, Izumi Watanabe, Nobuyuki Azuma: Trophic characteristics and trace element concentrations in feathers of passerine species, SETAC Asia Pacific 2012.
- d-11. Sato, Nozomu, Honami Kamata, Yukiko Ban, Izumi Watanabe, Nobuyuki Azuma: Food web analysis using stable isotopes and trace elements in managed reed bed, SETAC Asia Pacific 2012.
- d-12. 木村紀昭・畠山嘉人・東 信行・殿内暁夫：十三湖底質に生息する細菌の多様性に関する研究. 第27回日本微生物生態学会大会.
- d-13. 木村紀昭・畠山嘉人・東 信行・殿内暁夫：十三湖底質の細菌群集. 第14回河川生態学術研究発表会.

**石田 清**

- a-01. Mizuki I, Kume A., Chiwa M., Uehara Y., and Ishida K.: Impact of soil water chemistry on the apparent sex ratio of the flowering ramets of the dioecious plant *Myrica gale* var. *tomentosa*. *Journal of Plant Research* 125: 631-641, 2012.
- a-02. 鈴木節子・永光輝義・石田 清・戸丸信弘：シデコブシの訪花昆虫と雌性成功との関係. 中部森林研究60: 37-42, 2012.

- d-01. Ishida K. and Hirayama K.: Genetic load reduces reproductive success in a small population of a threatened tree, *Magnolia stellata*. The 5th EAFES International Congress, Ryukoku University, Otsu, 2012.
- d-02. 加藤 慎孝・石田 清・菊地 淳一・鳥居 春己：イラクサ (*Urtica thunbergiana*) の表現型の可塑性：ニホンジカによる被食の影響. 日本生態学会第59回大会(龍谷大学, 滋賀), 2012.
- d-03. 庄司 優・石田 祐宣・伊藤 大雄・石田 清・M.L. Lopez C.・高橋 啓太・戎 信宏・高瀬 恵次・中北 英一・田中 賢治・山口 弘誠：白神山地ブナ林の二酸化炭素収支と気候の関係. 日本農業気象学会2012年大会(大阪府立大学, 大阪), 2012.

### 城田 安幸

- c-01. 城田安幸：「むし」な人々, 弘前大学『知の散歩道』 p165-177, 弘前大学出版会, 2012年1月.
- d-01. 城田安幸：昆虫の目玉模様の進化の研究からりんごで免疫賦活剤ができた！ 苫小牧東高校ジョイントセミナー招待講演, 2011年12月.
- d-02. 城田安幸：弘前大学出版会百冊出版記念出版『知の散歩道』「むし」な人々. 日本昆虫学会東北支部, 第46回青森県昆虫談話会, 2011年12月.
- d-03. 城田安幸・菅野清孝・斎藤 礁・城田 創：無農薬りんご園の害虫管理(8) 青森県 大鰐町における, モモシクイガ1化性地帯の可能性. 第56回日本応用動物昆虫学会大会, 2012年3月.
- d-04. 城田安幸：Anti-tumor effects of *Malus domestica* (12) Mental status of cancer people has improved with drinking period of the juice. リンゴ (*Malus domestica*) の抗腫瘍効果(12) 癌罹病者の精神状態は未熟果実入りリンゴジュースの飲用期間に比例して改善される. 日本癌学会 第71回総会, 2012年9月.
- d-05. 城田安幸：「基礎研究」から「応用研究」へ：科学の社会への発進と還元「昆虫の目玉模様の研究からりんごで免疫賦活剤ができた!？」第8回エアロゾル若手討論会 基調講演(招待).
- f-01. 私の命の一里塚 大津波と『ファーブル昆虫記』, 『階』帝国書院 2012年3月号, P 9.
- f-02. 大学のお酒「医果同源・アップルブリュー」と、「津軽百年しあわせりんごのお麦酒(さけ)」, 日本醸造協会誌 第107巻 第9号 P885-886, 2012年.
- f-03. 城田安幸：ナチュラルキラー活性を高め, 血糖値を下げる, 未熟果実入りリンゴジュース「医果同源」と, 医果同源にりんごペクチンを加えた「医果同源プラス」, および医果同源で作ったビール, 「アップルブリュー」の展示・試飲. アグリビジネス創出フェア2011出展, 農林水産省主催, 千葉県 幕張メッセ特設会場会場, 2011年11月.
- f-04. 城田安幸：NK活性を高め血糖値を下げる, リンゴジュース「医果同源」『研究・技術プレゼンテーション』. アグリビジネス創出フェア2011プレゼン発表, 農林水産省主催, 千葉県 幕張メッセ特設会場, 2011年11月.
- f-05. 城田安幸：「第5回大学は美味しい!!フェア」出展. 「大学は美味しい!!フェア実行委員会/小学館 DIME」主催, 東京「新宿高島屋」会場, 2012年5月.
- f-06. 城田安幸：りんごペクチン入り新たな発泡酒開発 弘大城田准教授. 東奥日報, 2012年5月26日.
- f-07. 城田安幸：りんご発泡酒 甘さ生かして飲みやすく 都内フェアで披露へ. 陸奥新報, 2012年5月27日.
- f-08. 城田安幸：りんごの搾りかすに多く含まれる成分ペクチンと, 無農薬の未熟りんごを使った新発泡酒「津軽百年しあわせりんごのお麦酒(さけ)」. 毎日新聞全国版「雑記帳」, 2012年5月31日.
- f-09. 城田安幸：りんご害虫 無農薬で抑制 弘大・城田准教授「放任園対策に」, 東奥日報, 2012年7月16日.
- f-10. 城田安幸：放任りんご園活用提案 弘大・城田准教授 未熟果, 無農薬で, 陸奥新報, 2012年7月16日.

### 鳥丸 猛

- a-01. 鳥丸 猛(2012) マイクロサテライト分析によるヨーロッパアカマツ採種園における花粉散布パターンの定量化. 林木の育種 243: 3-8.
- a-02. T. Torimaru and N. Tomaru (2012) Reproductive investment at stem and genet levels in male and female plants of the clonal dioecious shrub *Ilex leucoclada* (Aquifoliaceae). Botany, 90, 301-310.
- a-03. T. Torimaru, U. Wennström, D. Lindgren, X-R Wang (2012) Effects of male fecundity, interindividual distance and anisotropic pollen dispersal on mating success in a Scots pine (*Pinus sylvestris*) seed orchard. Heredity, 108, 312-321.
- d-01. 鳥丸 猛・佐野 淳之・永松 大・戸丸 信弘・西村 尚之・松下 通也・稲永 路子・山本 進一, 鳥取県大山ブナ高齢林における主要構成樹種3種の個体群動態の比較, 第59回日本生態学会大会(龍谷大学), 2012.
- d-02. 成田 真智子・鳥丸 猛, 白神山地高倉森におけるハウチワカエデ集団の遺伝的構造と父性繁殖特性, 第59回日

本生態学会大会(龍谷大学), 2012.

- d-03. Inanaga, M., Torimaru, T., Nishimura, N., Tomaru, N. Pollen dispersal patterns of *Fagus crenata* in an old-growth beech forest revealed by parent-pair analysis using pericarp and embryo DNA in nuts. Joint Meeting of The 59th Annual Meeting of ESJ & The 5th EAFES International Congress, March 2012, Otsu.

## 【分子生命科学科】

## 【生命科学コース】

## 石黒 誠一

- a-01. Taku Ozaki, Mitsuru Nakazawa, Tetsuro Yamashita, Hiroyuki Sorimachi, Shoji Hata, Hiroshi Tomita, Hitomi Isago, Ayaka Baba, Sei-ichi Ishiguro: Intravitreal injection or topical eye-drop application of a  $\mu$ -calpain C2L domain peptide protects against photoreceptor cell death in Royal College of Surgeons' rats, a model of retinitis pigmentosa. *Biochimica et Biophysica Acta* **1822**: 1783-1795, 2012.
- a-02. Kota Sato, Taku Ozaki, Sei-ichi Ishiguro, Mitsuru Nakazawa: M-opsin protein degradation is inhibited by MG-132 in Rpe65  $-/-$  retinal explant culture. *Molecular Vision* **18**: 1516-1525, 2012.
- d-01. 尾崎 拓・中澤 満・山下哲郎・石黒誠一：新規カルパインペプチドを用いた網膜視細胞変性の抑制．第16回眼科分子生物学研究会．（熊本県山鹿市），2012. 2. 11.
- d-02. 尾崎 拓・中澤 満・山下哲郎・馬場彩加・石黒誠一：カルパイン阻害ペプチドの硝子体内投与および点眼による網膜色素変性症モデル RCS ラット視細胞変性の保護，日本生化学会東北支部第78回例会・シンポジウム．（山形），2012. 5. 26.
- d-03. 馬場彩加・尾崎 拓・中澤 満・山下哲郎・石黒誠一：ミトコンドリア  $\mu$ -カルパイン阻害ペプチドによる網膜視細胞変性の保護，第83回日本動物学会．（大阪），2012. 9. 13.

## 菊池 英明

- a-01. Otori, H., Higashiyama, T., Uehara, A., Kainuma, M., Kudo, Y., Kamimura, T., Kon, T., Mochitate, K., Kikuchi, H., Y. Furuya: Signal change of surface acoustic wave (SAW) by  $H_2O_2$  damage to SV40-T2 cells cultivated on SH-SAW Sensor, *Sensors and Actuators A* (in press).
- a-02. Kasai, S., Ishigaki, T., Takumi, R., Kamimura, T., H. Kikuchi:  $\beta$ -catenin signaling induces CYP1A1 expression by disrupting adherens junctions in Caco-2 human colon carcinoma cells. *Biochim. Biophys. Acta*, (in press).
- b-01. Kudo, K., Takeuchi, T., Murakami, Y., Ebina, M., H. Kikuchi: Analysis of the region of the aryl hydrocarbon receptor required for ligand dependency of transactivation. 17th International Conference on Cytochrome P450, Biochemistry, Biophysics and Structure, 43-49, 2011, ISBN 978-88-7587-616-6.
- d-01. 下山修司・葛西秋宅・菊池英明：The function of Sp1 and CREM $\tau$  induction of CYP1A1 in human HepG2 cells. 第34回日本分子生物学会年会（横浜），2011.
- d-02. 葛西秋宅・石垣貴則・菊池英明・前澤千早：Disruption of beta-catenin tethering of E-cadherin induces transient activation of aryl hydrocarbon receptor in Caco-2 cells. 第34回日本分子生物学会年会（横浜），2011.
- d-03. 大鳥秀貴・上原篤詞・貝沼美帆・工藤優佳子・東山拓海・今 大健・持立克身・菊池英明・古屋泰文：第21回インテリジェント材料システムシンポジウム（東京）「表面弾性波（SH-SAW）基板に培養した細胞の損傷による信号変化」（東京女子医科大学 先端生命医科学研究所）2012.

## 橋本 勝

- a-01. R. Yasumura; K. Tanaka; T. Nehira; M. Hashimoto. "Structural corrections of photinides A, B and their novel derivatives", *Tetrahedron*, **68**, 7991-7996 (2012).
- a-02. M. Honma, K. Tanaka, K. Konno, K. Tsuge, T. Okuno, M. Hashimoto, "Termination of the structural confusion between plipastatin A1 and fengycin IX", *Bioorg. Med. Chem.*, **20**, 3793-3798 (2012).
- a-03. S. Kanamaru, M. Honma, T. Murakami, T. Tsushima, S. Kudo, K. Tanaka, K. Nihei, T. Nehira, M. Hashimoto, "Absolute Stereochemistry of Altersolanol A and Alterporriols", *Chirality*, **24**, 137-146 (2012).
- a-04. K. Yamamoto, K. Yoon, K. Ueda, M. Hashimoto, J. R. Sparrow, "A novel bisretinoid of retina is an Adduct on Glycerophosphoethanolamine" *Investigative Ophthalmology & Visual Science*, **51**, 9084-9090 (2011).
- d-01. 金丸沙樹・坂元君年・橋本 勝，ESIMSMSにおけるイオン系列分離，日本農芸化学会東北支部 第146回大会（2011. 10. 08, 鶴岡）。
- d-02. 安村良子・金丸沙樹・橋本 勝・田中和明，*Discosia* sp.が産生する benzofuranone 誘導体の構造，日本農芸化学会東北支部 第146回大会（2011. 10. 08, 鶴岡）。
- d-03. 本間美保・田中和明・紺野勝弘・柘植謙爾・橋本 勝，抗菌性デブシペプチドの構造解析研究，日本農芸化学会

東北支部 第146回大会 (2011. 10. 08, 鶴岡).

- d-04. 橋本 勝, Fengycin構造混乱の終結: 合成経路の矛盾解消, 新学術領域研究「生合成マシナリー: 生物活性物質構造多様性創出システムの解明と制御」 第三回公開シンポジウム (2011. 12. 03, 東京).
- d-05. 安村良子・金丸沙樹・田中和明・根平達夫・橋本 勝, *Discosia* sp.が生産する photinide A, Bの構造訂正と新規誘導体の単離, 日本農芸化学会2012年度大会 (2012. 03. 23, 京都).
- d-06. 橋本 勝・本間美保・田中和明・紺野勝弘・柘植謙爾・奥野智旦, PlipastainとFengycinの構造混乱終結(2), 日本農芸化学会2012年度大会 (2012. 03. 23, 京都).
- d-07. 金丸沙樹・坂元君年・紺野勝弘・橋本 勝, 確実なペプチド配列解析を目指したESIMS/MSにおけるイオン系列分離方法の開発研究, 日本農芸化学会2012年度大会 (2012. 03. 24, 京都).
- d-08. Masaru Hashimoto, "Termination of the Structural Confusion between Plipastatin A1 and Fengycin IX", International Congress on Natural Products Research (2012. 07. 29, New York).
- d-09. Masaru Hashimoto, "Termination of the Structural Confusion between Plipastatin A1 and Fengycin IX", International Conference of Natural Product Biosynthesis (2012. 06. 19, Awaji Shima).
- d-10. 橋本 勝, リンゴ果実におけるマイコパラサイト現象の有機化学的研究, 日本化学会東北支部 有機化学コロキウム (2012. 09. 25, 秋田, 招待講演).
- d-11. 橋本 勝・本間美保・田中和明・紺野勝弘・柘植謙爾・奥野智旦, PlipastainとFengycinにおける構造混乱の終結, 第54 天然有機化合物討論会 (2012. 09. 18, 東京).
- f-01. M. Hashimoto, "Determination of the Stereochemistry in some Natural Products", Department seminar, Department of Chemistry, Michigan State University (2012. 07. 24).
- f-02. M. Hashimoto, "Determination of the Stereochemistry in some Natural Products", Department seminar, Chemistry Department, Hunter College of The City University of New York (2012. 07. 24).

## 姫野 俵太

- a-01. Kurita, D., Muto, A., Himeno, H.: *In vitro trans*-translation assays. *Methods Mol. Biol.* **905**, 311-325, 2012.
- b-01. 姫野俵太: 「弘前で咲いたRNAの研究」, 弘前大学知の散歩道, 147-155, 弘前大学出版会 (2012)
- d-01. Goto, S., Muto, A., Himeno, H.: A GTPase dissociates a ribosome binding factor from the 30S subunit of the ribosome during a late stage of bacterial ribosome biogenesis. 第34回日本分子生物学会年会 (パシフィコ横浜), 2011.
- d-02. 後藤史門・樽澤武房・長谷要一・菊池岳志・武藤あきら・姫野俵太: 大腸菌リボソーム小サブユニット依存GTP加水分解酵素 RsgAの機能, 第1回 Ribosome Meeting (広島大学), 2012.
- d-03. 樽澤武房・長谷要一・武藤あきら・姫野俵太: リボソームの不完全性は大腸菌に塩耐性をもたらす, 日本農芸化学会2012年度大会 (京都女子大学), 2012.
- d-04. Takada, K., Kurita, D., Naoe, C., Yokogawa, T., Himeno, H., Takemoto, C.: The first translocation in *trans*-translation. 第14回日本RNA学会年会 (東北大学), 2012.
- d-05. 加藤 新・佐藤洋旭・高橋大輝・姫野俵太・武藤あきら・牛田千里: 線虫 SL1 トランススプライシングは生殖細胞でより活発? 第14回日本RNA学会年会 (東北大学), 2012.
- d-04. Goto, S., Muto, A., Himeno, H.: Interplay of a GTPase and a ribosome-binding factor on the 30S subunit during a late stage of the bacterial ribosome biosynthesis. The 9th International Conference on Ribosome Synthesis (The Banff Centre), 2012.
- f-01. 姫野俵太: 1. tmRNA・SmpBによるトランストランスレーション, 2. リボソームの生合成過程と細胞の浸透圧耐性について, 東京大学大学院工学研究科集中講義「構造生物学特論」(東京大学), 2012.

## 牛田 千里

- a-01. Usuyama, M., Ushida, C., Shingai, R.: A model of the intracellular response of an olfactory neuron in *Caenorhabditis elegans* to odor stimulation. *PLoS One* **7**: e42907, 2012.
- b-01. 牛田千里・藤原俊伸: Small subunit processome. 生体の科学, 第62巻5号418-419ページ, 2011.
- b-02. 牛田千里・藤原俊伸: 核小体タンパク質フィブリラリン. 生体の科学, 第62巻5号420-421ページ, 2011.
- d-01. Yoshida, T., Shimane, T., Kawaguchi, T., Fujiwara, S., Sugawara, Y., Ushida, C., Kawai, G.: Structural analysis of a non-coding RNA, CeR-5, found in *C. elegans*. 第50回NMR討論会 記念国際シンポジウム (ISNMR 2011) (横浜), 2011.

- d-02. 佐藤真悠・遠藤 愛・保木井悠介・牛田千里：線虫 LSU rRNA 前駆体のプロセッシング異常を示す変異体の表現型解析. 第34回分子生物学会年会(横浜), 2011.
- d-03. 佐藤真悠・遠藤 愛・保木井悠介・牛田千里：線虫核小体 RNA 遺伝子欠損株 MT16939 における精子の減少. 第1回 Ribosome Meeting (広島), 2012.
- d-04. 加藤 新・佐藤洋旭・高橋大輝・姫野倭太・武藤 昱・牛田千里：線虫 Sm Y-10 RNA は生殖細胞で強い発現を示す. 第14回日本 RNA 学会年会(仙台), 2012.
- d-05. 奥居沙弥・牛田千里・清澤秀孔・河合剛太：RNA 構造スクリーニングのための NMR 試験管内転写法の開発. 第14回日本 RNA 学会年会(仙台), 2012.
- f-01. 牛田千里：研究の楽しみ, 育児の楽しみ～ ncRNA と息子を追いかける毎日から～. 弘前大学第6回女性研究者フォーラム, 2011.
- f-02. 牛田千里：読売新聞, 教育ルネサンス「弘前大の実力～リケジョ編⑤」インタビュー, 2012.

## 高田 晃

### 畠山 幸紀

- a-01. 畠山幸紀：高速 LAN で可能となる教育用 Web サイトの開発に関する研究～高解像度生物標本画像アーカイブの製作. HIROIN, 29: 47-54, 2012.
- a-02. 畠山幸紀：学内高速ネットワーク回線を利用した大学所蔵資料の教育活用：高解像度動物標本画像を用いた教育用 Web サイトの公開. 日本電気学会電気・情報・システム部門大会講演論文集, 1153-1156, 2012.
- d-01. 畠山幸紀：学内高速ネットワーク回線を利用した大学所蔵資料の教育活用：高解像度動物標本画像を用いた教育用 Web サイトの公開. 日本電気学会電気・情報・システム部門大会(弘前大学), 2012.

### 栗田 大輔

- a-01. Kurita, D., Muto, A., Himeno, H.: *In vitro trans-translation assays. Methods Mol. Biol.* **905**, 311-325, 2012.
- d-01. Takada, K., Kurita, D., Naoe, C., Yokogawa, T., Himeno, H., Takemoto, C.: The first translocation in *trans-translation*. 第14回日本 RNA 学会年会(東北大学), 2012.

## 【応用生命コース】

### 大町 鉄雄

- d-1. 糸野詩織・藤田りつ子・長山耕己・大町鉄雄：細胞性粘菌における 3-Hydroxy-3-methylglutaryl-CoA synthase の発現と細胞内局在性. 第84回日本生化学会大会(京都).

### 宮入 一夫

- a-01. Shun Ogawa, Mariko Ito, Hajime Ohki, Tsubasa Kimura, Tetsuya Shimizu, Motoki Matsuda, and Kazuo Miyairi: Glycosylation status and conformational stability of recombinant *Stereum purpureum* endopolygalacturonase IVs produced in an *Aspergillus oryzae* expression system. *J. Appl. Glycosci.*, **59**: 37-42, 2012.
- a-02. Tsubasa Kimura, Shun Ogawa, Motoki Matsuda, Tetsuya Shimizu, and Kazuo Miyairi: Active suppression of EndoPG IV by ligation of the pro-sequence from *Stereum purpureum* Pro-EndoPG I. *Biosci. Biotechnol. Biochem.*, **76**: 196-198, 2012.
- a-03. Mina Yamada, Naoko Tokumitsu, Yoko Saikawa, Masaya Nakata, Junpei Asano, Kazuo Miyairi, Toshikatsu Okuno, Katsuhiko Konno, Kimiko Hashimoto: Molybdophyllysin, a Toxic Metalloendopeptidase from the Tropical Toadstool, *Chlorophyllum Molybdites*. *Bioorganic & Medicinal Chemistry*, **20**: 6583-6588, 2012.
- d-01. 木村 翼・小川 俊・清水哲哉・奥野智旦・宮入一夫：銀葉病菌由来 Pro-EndoPGI のプロ配列付加による EndoPGIII と IV の活性抑制. 日本応用糖質科学全国大会. 札幌, 2011. 10. 8.
- d-02. 宮入一夫：銀葉病菌の病徴発現物質としてのエンドポリガラクトツロナーゼ. 青森糖質研究会 特別講演(弘前) 2011. 11. 18.
- d-03. 宮入一夫・小川 峻・木村 翼・奥野智旦：銀葉病菌の病徴発現物質としてのエンドポリガラクトツロナーゼ I の不活性型の存在. 日本植物病理学会(福岡) 2012. 3. 30.
- d-04. 宮入一夫：異種発現系による銀葉病菌由来エンドポリガラクトツロナーゼ組換え体のジスルフィド結合と糖鎖分析

から見えてくる問題点. 日本応用糖質科学会東北支部大会, 秋田, 招待講演 2012. 7. 13.

- d-05. 小川紗也加・木村詩織・木村 翼・奥野智旦・宮入一夫: 不活性型エンドポリガラクトツロナーゼ I の部位特異的変異導入による活性抑制への影響. 日本応用糖質科学会東北支部大会(秋田)2012. 7. 13.
- f-01. 宮入一夫: リンゴペクチンのちから. 公開講座「リンゴを科学する」岩木文化センター, 2011. 12. 4.

### 吉田 孝

- a-01. Akao, T., Yahara, A., Sakamoto, K., Yamada, O., Akita, O., Yoshida, T.: Lack of endoplasmic reticulum 1,2- $\alpha$ -mannosidase activity that trims N-glycan Man<sub>9</sub>GlcNAc<sub>2</sub> to Man<sub>8</sub>GlcNAc<sub>2</sub> isomer B in a *manE* gene disruptant of *Aspergillus oryzae*. *J. Biosci. Bioeng.*, **113**: 438-41, 2012.
- c-01. Takashi Yoshida: Enzyme assay of fungal  $\alpha$ -1,2-mannosidase. Glycoscience Protocol Online Database (GlycoPOD, <http://jcgdb.jp/GlycoPOD/>) (分担執筆, 2012年).
- c-02. 吉田 孝: ティーチングポートフォリオを活用したFD活動の展開. 鬼島, 神田共編, 弘前大学出版会, 155-160頁(分担執筆, 2012年).
- d-01. 吉田 孝・児島 薫: 多機能高分子・プロテオグリカンについて. 平成24年度繊維学会秋季研究発表会, 福井大学(招待講演, 2012年9月).
- f-01. 吉田 孝: イソマルターゼ. 特願2012-078986(共同出願, 2012年3月).

### 園木 和典

- a-01. Sonoki T, Suto K, Mizumoto H, Furukawa T, Kimura K, Fang J, Jindo K, Sanchez-Monedero MA. Characterization of biochar-blended composting for carbon offset. *Transactions in the Materials Research Society of Japan*. 36 (4): 581-584. 2011.
- a-02. Jindo K, Suto K, Matsumoto K, Garcia C, Sonoki T, Sanchez-Monedero MA. Chemical and biochemical characterisation of biochar-blended composts prepared from poultry manure. *Bioresource Technology*. 110: 396-404. 2012.
- a-03. Jindo K, Sanchez-Monedero MA, Hernandez T, Garcia C, Furukawa T, Matsumoto K, Sonoki T, Bastida F. Biochar influences the microbial community structure during manure composting with agricultural wastes. *Science of the Total Environment*. 416: 476-481. 2012.
- a-04. Nigorikawa M, Watanabe A, Furukawa K, Sonoki T, Ito Y. Enhanced saccharification of rice straw by overexpression of rice exo-glucanase. *Rice*. 5: 14. 2012.
- a-05. Sonoki T, Furukawa T, Jindo K, Suto K, Aoyama M, Sanchez-Monedero MA. Influence of biochar addition on methane metabolism during thermophilic phase in composting. *Journal of Basic Microbiology*. 52: 1-5. 2012.
- b-01. Sonoki T, Imura Y, Kajita S. Phytoremediation of bis-phenol A via secretory fungal peroxidases produced by transgenic plants. Ozen Y, eds.: *Transgenic Plants* (ISBN 978-953-307-953-0), INTECH. Chapter 7, pp. 149-160. 2012.
- d-01. Fukuda K, Sonoki T, Kikuchi T, Okabe T. Development of Life Cycle Assessment technique of Wood Biomass (II). The Influence on LCA Evaluation by the Composition of Cedar. 21<sup>st</sup> MRS-J academic symposium. 2011.
- d-02. 水本英樹・上平良弘・岡部敏弘・神藤恵史・Sanchez-Monedero MA・園木和典. 地域未利用バイオマスから作製した biochar による炭素隔離ポテンシャルの評価. 第21回日本 MRS 学術シンポジウム. 2011.
- d-03. 濁川 睦・渡辺藍子・古川佳世子・園木和典・伊藤幸博. Effects of overexpression of each of cellulases on saccharification of rice straw. 第34回日本分子生物学会年会, 2011.
- d-04. Mutsumi Nigorikawa, Aiko Watanabe, Kayoko Furukawa, Tomonori Sonoki, Yukihiro Ito. Enhanced saccharification of rice straw by overexpression of rice exo-glucanase. 9th International Symposium of Rice Functional Genomics. 2011.
- d-05. Koji Fukuda, Tomonori Sonoki, Toru Kikuchi, Toshihiro Okabe. Development of Life Cycle Assessment technique of Wood biomass. 10th International conference on Eco-material. 2011.
- d-06. 高橋麻紀・澤口知歩・渡辺藍子・濁川 睦・古川佳世子・飯村洋介・梶田真也・小口太一・伊藤幸博・園木和典. 担子菌ラッカーゼ発現によるイネ稈の細胞壁組成変化. 日本農芸化学会2012年大会. 2012.
- d-07. 鈴木由麻・佐藤夕貴・佐藤 圭・園木和典. りんご搾り粕を原料とした *Clostridium beijerinckii* HU-1株による水素生産. 日本農芸化学会2012年大会. 2012.
- d-08. 古川 徹・神藤恵史・青山正和・Sanchez-Monedero MA・園木和典. Biochar 混合による堆肥化過程の CH<sub>4</sub>排

出抑制効果と CH<sub>4</sub>代謝関連酵素遺伝子解析. 日本農芸化学会 2012 年大会, 2012.

- d-09. 古川佳世子・濁川 睦・渡辺藍子・園木和典・伊藤幸博. 老化誘導プロモーターとセルラーゼを用いた稲ワラ糖化性向上. 第7回東北育種研究集会, 2012.
- d-10. Ito Y, Sonoki T. Enhanced saccharification of rice straw by overexpression of rice exo-glucanase. 15<sup>th</sup> International Biotechnology Symposium and Exhibition, 2012.
- d-11. Fukuda K, Sonoki T, Okabe T. Influence of the composition of logging residues on the cost effective analysis for wood power generation. 22<sup>nd</sup> MRS-J academic symposium, 2012.
- e-01. 園木和典:平成23年度弘前大学若手研究者支援事業実績報告書, 2012.
- f-01. 園木和典: Biocharによる炭素隔離ポテンシャルと農業生産への Biocharの応用例: 緑と水の環境技術革命プロジェクトシンポジウム, 2011.
- f-02. 園木和典: 農業残渣の古くて新しい活用: 農学生命科学部公開講座, 2011.
- f-03. 園木和典: 環境に優しい炭入り堆肥の製造: 弘前大学 GOGO ファンド成果報告会, 2011.
- f-04. 園木和典: 生物資源活用の現状と課題: 農村リーダー育成事業アグリカレッジ, 2012.

### 殿内 暁夫

- a-01. Tonouchi, A, Kitamura, K and Fujita, T: *Brevibacterium yomogidense* sp. nov. isolated from a soil conditioner made from poultry manure. *Int. J. Syst. Evol. Microbiol* (in press).
- a-02. 佐々木長市・松山信彦・佐瀬 隆・殿内暁夫・Shyamal Kumar Paul・野田香織・山岸洋貴: 白神山地の土壤に関する研究 (8), 白神研究8号: 50-61 (2011).
- d-01. 本田拓也・北村浩二・藤田 隆・殿内暁夫: 水田土壌から分離した Synergistaceae 科細菌の系統分類学的研究. 第27回日本微生物生態学会大会.
- d-02. 内村ゆき美・川崎通夫・殿内暁夫: 水田土壌から分離した嫌気性アメーバの分類学的研究, 第27回日本微生物生態学会大会.
- d-03. 木村紀昭・畠山嘉人・東 信行・殿内暁夫: 十三湖底質に生息する細菌の多様性に関する研究. 第27回日本微生物生態学会大会.
- d-04. 田沢大輔・川原郁美・殿内暁夫: 白神山地の樹木に生息する細菌に関する研究.
- d-05. 木村紀昭・畠山嘉人・東 信行・殿内暁夫: 十三湖底質の細菌群集. 第14回河川生態学術研究発表会.
- f-01. 殿内暁夫: 水田土壌の嫌気的真核生物. 鳥取大学グローバル COE フロケラム「持続性社会構築に向けた菌類きのこ資源活用」第34回 GCOE 研究会.

### 坂元 君年

- a-01. Oda, Y., Yui, R., Sakamoto, K., Kita, K., Matsuura, ET.: Age-related changes in the activities of respiratory chain complexes and mitochondrial morphology in *Drosophila*. *Mitochondrion*, **12**: 345-351, 2012.
- a-02. Shimizu, H., Osanai, A., Sakamoto, K., Inaoka, D. K., Shiba, T., Harada, S., Kita, K.: Crystal structure of mitochondrial quinol-fumarate reductase from the parasitic nematode *Ascaris suum*. *J. Biochem.*, **151**: 589-592, 2012.
- d-01. 坂元君年・Hendri Aldrat・北潔: コハク酸脱水素酵素複合体の異種生物間発現系の開発. 日本農芸化学会東北支部第146回大会 (山形大学), 2011.
- d-02. 坂元君年・Hendri Aldrat・北潔: 紅色光合成細菌 *Rhodobacter capsulatus* を用いたコハク酸脱水素酵素複合体の異種生物間発現. 日本農芸化学会2012年度大会 (京都女子大学), 2012.
- d-03. 櫻田拓也・坂元君年: 自由生活性扁形動物のミトコンドリア呼吸鎖. 第6回蠕虫研究会 (青島サンクマール・宮崎), 2012.

## 【生物資源学科】

## 【食料開発コース】

## 石川 隆二

- a-01. Waters, D.L.E., C.J. Nock, R. Ishikawa, N. Rice, and R.J. Henry (2012) Chloroplast genome sequence confirms distinctness of Australian and Asian wild rice. *Ecology and Evolution* 2: 211-217.
- a-02. 川崎通夫・川村陽一・岩澤紀生・石川隆二 (2012) 青森県育成・奨励水稻品種における胴割れ米の発現と構造に関する形態学的研究. *日本作物学会東北支部会報* 54: 29-32.
- d-01. Gima, K., Y. Akaishi, Y. Kawamura, M. Kawasaki, R. Ishikawa: Introduction of tolerant gene for grain quality to global warming in rice 日本学術振興会 アジア研究教育拠点事業「東アジア植物遺伝資源シンポジウム」(岡山大学), 2011.
- d-02. Ishikawa, R.: Evaluation of wild rice resources in Asia and Oceania by “*de novo*” collection -migration of wild rice before domestication. 「東アジア植物遺伝資源シンポジウム」(岡山大学), 2011.
- d-03. Kobayashi, Y. and R. Ishikawa: Evolutionary relation between Asian and Oceanian wild rices. 日本学術振興会 アジア研究教育拠点事業 「東アジア植物遺伝資源シンポジウム」(岡山大学), 2011.
- d-04. Ootsuka, K., T. Itani, R. Ishikawa: Genetic variation of Fragrant rice and independent domestication found in Japan. 「東アジア植物遺伝資源シンポジウム」(岡山大学), 2011.
- d-05. Gima, K., Y. Akaishi, Y. Kawamura, M. Kawasaki, R. Ishikawa: Introduction of tolerant gene for grain quality to global warming in rice. Fifth anniversary Memorial Symposium for Mutual Exchange Program between Faculty of Agriculture and Life Science, Hirosaki University and College of Agronomy and Biotechnology, China Agricultural University (弘前大学), 2011.
- d-06. Ishikawa, R. Rice Genetics~Establish Wild rice resources and functi Fifth anniversary Memorial Symposium for Mutual Exchange Program between Faculty of Agriculture and Life Science, Hirosaki University and College of Agronomy and Biotechnology, China Agricultural University (弘前大学), 2011.
- d-07. Kobayashi, Y, K. Tanaka, K. Ichitani, I. Nakamura, Y-I. Sato, T. Sato, R. Ishikawa: Structure analysis of perennial rice in Australia. Fifth anniversary Memorial Symposium for Mutual Exchange Program between Faculty of Agriculture and Life Science, Hirosaki University and College of Agronomy and Biotechnology, China Agricultural University (弘前大学), 2011.
- d-08. Ootsuka, K., T. Itani, R. Ishikawa: Genetic variation of Fragrant rice and independent domestication found in Japan. Fifth anniversary Memorial Symposium for Mutual Exchange Program between Faculty of Agriculture and Life Science, Hirosaki University and College of Agronomy and Biotechnology, China Agricultural University (弘前大学), 2011.
- d-09. Saito, S., R. Ishikawa: Activity of transposable elements inserted into *OsMADS6* and phenotypic variation of the revertants. Fifth anniversary Memorial Symposium for Mutual Exchange Program between Faculty of Agriculture and Life Science, Hirosaki University and College of Agronomy and Biotechnology, China Agricultural University (弘前大学), 2011.
- d-10. 大塚健太・小林 雄・田中克典・一谷勝之・中村郁郎・佐藤洋一郎・佐藤雅志・吉田健太郎・夏目 俊・小杉俊一・寺内良平・石川隆二 形態, SSR, ならびに WGSによるオーストラリアの野生イネ系統分化程度の評価. 第121回日本育種学会(宇都宮大学), 2012. 3月28日(水).
- d-11. 儀間構造・赤石有加・川崎通夫・川村陽一・田淵宏朗・吉田健太郎・夏目 俊・小杉俊一・寺内良平・石川隆二 恋ほのかの高度胴割れ抵抗性の遺伝解析と WGSによるゲノム構成情報の利用. 第121回日本育種学会(宇都宮大学), 2012.
- d-12. 外和昌大・小林 雄・田中克典・一谷勝之・中村郁郎・佐藤洋一郎・佐藤雅志・石川隆二 オーストラリアの多年生野生イネ葉緑体多型評価と自然集団の多様性. 第121回日本育種学会(宇都宮大学), 2012.
- d-13. 高橋・大塚・殿内・猪谷・石川隆二 日本在来香り米の独立起源に関する遺伝特性の解析. 第121回日本育種学会(宇都宮大学), 2012.
- d-14. Ryuji Ishikawa Australian Wild Rice; a valuable genetic resource. 62th Australian Cereal Conference (Gold coast, Australia), 2012.
- d-15. 川崎通夫・川村陽一・石川隆二 (2011) 青森県育成・奨励水稻品種における胴割れ米の発現と構造に関する形態学

的検討. 日本作物学会東北支部第54回講演会(山形テルサ, 山形市)

## 柏木 明子

- a-01. Tomonori Inomata<sup>†</sup>, Hitomi Kimura<sup>†</sup>, Haruki Hayasaka, Akinori Shiozaki, Yasuhiro Fujita, & Akiko Kashiwagi († These authors contributed equally to this study): Quantitative comparison of the RNA bacteriophage Q $\beta$  life cycle in rich and minimal media, Archives of Virology, 2012, in press, DOI: 10.1007/s00705-012-1419-3.
- d-01. 菅原 竜・四方哲也・柏木明子: RNAバクテリオファージQ $\beta$ の高温適応系の構築, 第34回日本分子生物学会年会, パシフィコ横浜(神奈川県), 2011.12.13-16.
- d-02. Akiko Kashiwagi & Tetsuya Yomo: Co-evolution between a host and a pathogen, 日本進化学会第14回東京大会, 首都大学東京, 2012. 8.21-24, (招待講演)
- d-03. 羽瀨真清・宮崎美賀子・瀧川 剛・松本佑介・末吉真人・木内あや子・細田一史・鈴木真吾・柏木明子・森光太郎・四方哲也: 独立栄養から従属栄養に向けてのシアノバクテリアの実験進化, 日本進化学会第14回東京大会, 首都大学東京, 2012. 8.21-24.
- d-04. 柏木明子: RNAバクテリオファージQ $\beta$ を用いた進化実験, 第4回ファージ研究会, 群馬大学, 2012.9.19-20.
- e-01. 柏木明子: 平成23年度弘前大学若手研究者支援事業実績報告書, 2012.
- e-02. 柏木明子: 科学研究費補助金(若手研究B)報告書, 2012.
- e-03. 柏木明子: 科学研究費補助金(基盤C)報告書, 2012.
- e-04. 柏木明子: 戦略的創造研究推進事業四方動的微小反応場プロジェクト(科学技術振興機構), 平成23年度 研究成果報告書, 2012.
- f-01. 柏木明子: (公財)加藤記念バイオサイエンス振興財団 成果報告会, 実験室内進化系を用いたRNAウイルスの進化に関する研究, 東京リサーチパーク(東京), 2011. 10. 24.
- f-02. Chikara Furusawa, Takao Suzuki, Akiko Kashiwagi, Tetsuya Yomo, Kunihiko Kaneko, Ubiquity of log-normal distributions in intra-cellular reaction dynamics, 第1回 BIOPHYSICS論文賞(日本生物物理学会), 2012.6.

## 千田 峰生

- a-01. Senda, M., T. Kurauchi, A. Kasai, S. Ohnishi: Suppressive mechanism of seed coat pigmentation in yellow soybean. Breeding Science **61**: 523-530, 2012.
- a-02. 山本英樹・千田峰生: ユリから検出されたレンブラントチューリップ斑入りウイルス(新称). 日本植物病理学会報**78**: 111-113, 2012.
- b-01. 千田峰生: 「植物の内在性遺伝子に生じる自然 RNA サイレンシング」植物の分子育種学 第14章, 講談社, 2011.
- d-01. 石郷岡直人・千田峰生: *I/T* 遺伝子を有する黄ダイズ栽培集団に混入した *i* 遺伝子の由来. 第6回東北育種研究集会(山形大学), 2011.
- d-02. 岩間信明・倉内 佑・千田峰生: 黄ダイズおよび着色ダイズにおける *CHS* 遺伝子翻訳産物量の定量比較. 第6回東北育種研究集会(山形大学), 2011.
- d-03. 高木恭子・西澤けいと・廣瀬亜矢・倉内 佑・千田峰生・増田 税・石本政男: キュウリモザイクウイルス(CMV)のサイレンシング抑制遺伝子によるダイズ種皮色の変化. 第32回種子生理生化学研究会, 2011.
- d-04. 木村駿佑・對馬優聖・千田峰生・川崎通夫: 鉛水溶液で水耕したサトイモの一次根における鉛局在性と結晶細胞管状配列との関係 日本作物学会第233回講演会(東京農工大学), 2012.
- d-05. 松澤めぐみ・西村さつき・乗田理恵・川崎通夫・千田峰生: 着色ダイズにおける種皮着色過程の解析 日本育種学会第121回講演会(宇都宮大学), 2012.
- d-06. 佐野麻衣子・松澤めぐみ・森あゆみ・穴井豊昭・川崎通夫・千田峰生: 黄ダイズ品種フクユタカの臍着色形質に関する解析 日本育種学会第121回講演会(宇都宮大学), 2012.
- d-07. 石郷岡直人・湯本節三・菊池彰夫・杉本琢真・千田峰生: 黄ダイズ栽培集団から見出された鞍掛突然変異体の解析 第7回東北育種研究集会(秋田県立大学), 2012.
- e-01. 千田峰生: マメ科在来種由来の有用形質に関与する遺伝子の同定および発現機構の解明 平成22年度岩手連大研究科長裁量経費報告書 RURUCA News No.14, 2011.
- f-01. 千田峰生: 「DNAを見てみよう」サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト, 2011.
- f-02. 千田峰生: 「遺伝子組換え作物についての話」弘前大学ドリーム講座(青森県立八戸東高等学校), 2012.

## 戸羽 隆弘

## 原田 竹雄

- a-01. Zhang W-N, Gong L, Ma C, Xu H-Y, Hu J-F, Harada T, Li T-Z: Gibberellic acid-insensitive mRNA transport in *Pyrus*. *Plant Molecular Biology Reporter* doi:10.1007/s11105-011-7, 2012.
- a-02. Bai S, Wang A, Igarashi M, Kon T, Fukasawa-Akada T, Li T, Harada T, Hatsuyama Y: Distribution of *MdACS3* null alleles in apple (*Malus × domestica* Borkh.) and its relevance to the fruit ripening characters. *Breeding Science* 62: 46-52, 2012.
- a-03. Harada T, Kasai A, Bai S; GrIGS; Graft Induced Gene Silencing for Horticultural Crop Improvement. *Curr. Pharmaceutical Biotech. 1st Biotechnology World Congress Dubai, UAE* 100-101, 2012.
- d-01. 原田竹雄：篩管輸送 RNA と根系機能活用による新規形質転換体作出法。園芸学会平成24年度秋季大会シンポジウム(福井県立大学), 2012.
- d-02. 原田竹雄・岩城麗香・岩本啓志・葛西厚史：エピ変異体獲得における RNA 篩管輸送モチーフの活用。日本育種学会(京都産業大学), 2012.
- d-03. 北條初音・葛西厚史・原田竹雄：接ぎ木を利用した内生遺伝子のエピ変異体獲得について。日本育種学会(京都産業大学), 2012.
- d-04. 葛西厚史・Adkar-Purushothama C-R・佐野輝男・原田竹雄：ウイルス(PSTVd)の siRNAs 産生台木上の穂木における PSTVd 増殖に対する抵抗性。日本育種学会(京都産業大学), 2012.
- d-05. 原田竹雄：植物の接ぎ木を利用した接ぎ木相手の形質転換。日本学術会議公開シンポジウム「新しい遺伝子組換え技術の開発と植物研究・植物育種への利用」(日本学術会議), 2012.
- d-06. 葛西厚史・佐野輝男・原田竹雄：ウイルス(PSTVd)の siRNAs 産生形質転換タバコを用いた接ぎ木における穂木の PSTVd 抵抗性。日本育種学会(宇都宮大学), 2012.
- d-07. 白松齡・川又 葵・原田竹雄：Identification and characterization of cytokinin dehydrogenase/oxidase (CKX) gene in *Micro-Tom*。日本育種学会(宇都宮大学), 2012.
- d-08. 原田竹雄・白松齡・北條初音・葛西厚史：接ぎ木による接ぎ木相手の形質転換。日本育種学会(宇都宮大学), 2012.
- d-09. 葛西厚史・鳥倉健太・佐野輝男・原田竹雄：ウイルス(PSTVd)の siRNAs 産生形質転換タバコにおける PSTVd 増殖抑制。日本分子生物学会(パシフィコ横浜), 2011.
- d-10. 徐海燕・原田竹雄：Characterization of the transport of GIBBERELIC ACID INSENSITIVE transcripts in phloem through graft junction. 日本分子生物学会(パシフィコ横浜), 2011.
- d-11. 白松齡・原田竹雄：Transcriptomic analysis of microRNAs in *Malus × domestica* cv. 'Golden Delicious' through high-throughput sequencing. 日本分子生物学会(パシフィコ横浜), 2011.
- d-12. 鳥倉健太・葛西厚史・佐野輝男・原田竹雄：ウイルス PSTVd の一部領域導入タバコの作出とその生育特性。(山形大学), 2011.
- d-13. 岩城玲香・徐海燕・原田竹雄：Atgai 形質転換体タバコの接ぎ木によるパートナーへの影響。(山形大学), 2011.
- d-14. 白松齡・原田竹雄：リンゴ *MdACS3a* 対立遺伝子の解析。中国農業大学 CAB - 弘前大学 FAL シンポジウム(弘前大学), 2011.
- d-15. 岩城麗香・徐海燕・原田竹雄：接ぎ木点を介した GAI mRNA の輸送解析。中国農業大学 CAB - 弘前大学 FAL シンポジウム(弘前大学), 2011.
- d-16. 葛西厚史・佐野輝男・原田竹雄：ウイルス siRNA 産生タバコのウイルス増殖解析。中国農業大学 CAB - 弘前大学 FAL シンポジウム(弘前大学), 2011.
- d-17. 白松齡・原田竹雄 GrIGS: A potential application for cultivar improvement of horticultural crops. 農業大学 CAB - 弘前大学 FAL シンポジウム(弘前大学), 2011.
- f-01. 原田竹雄：出前講義 弘前南高校「環境が遺伝子に記憶される！」。2011年7月。
- f-02. 原田竹雄：環境が遺伝子に記憶される！平成23年度弘前大学ドリーム講座。大湊高等学校 2011年10月。
- f-03. 原田竹雄・白松齡・葛西厚史：接ぎ木で行う品種改良。2011年アグリビジネス創出フェア(幕張メッセ)2011年11月。

**前多 隼人**

- a-01. Maeda H., Yamazaki M., Katagata Y.: Kuromoji (*Lindera umbellata*) essential oil-induced apoptosis and differentiation in human leukemia HL-60. *Exp Ther Med.*, 3: 49-52, 2012.
- b-01. Maeda H.: Functional ingredients from algae for foods and nutraceuticals. Woodhead Publishing, 2012.
- b-02. 前多隼人・斉藤修一・阿部美菜子・中村 望・片方陽太郎: パプリカ色素による脂質代謝調節作用. *New Food Industry.*, 54 (1): 24-30, 2012.
- b-03. 前多隼人: 香りの成分による生活習慣病予防. *AROMA RESEARCH*, 51: 14-18, 2012.
- d-01. 前多隼人・阿部美菜子・片方陽太郎: 小松菜に含まれるネオキササンチンによる脂肪細胞での脂質代謝調節作用. 日本農芸化学会(平成24年度)大会(京都女子大学), 2012.
- d-02. 山崎真央・片方陽太郎・前多隼人: クロモジ精油の抗炎症作用. 日本農芸化学会(平成24年度)大会(京都女子大学), 2012.
- d-03. 千葉詩子・東小太郎・前多隼人: 大間産ツルアラメのフコキサンチン含量と血漿脂質成分に対する効果. 平成24年度 日本水産学会春季大会(東京海洋大学), 2012.
- d-04. 前多隼人: 青森の地域産物に含まれる健康機能性物質に関する研究. 日本農芸化学会北海道支部夏期シンポジウム(北海道大学), 2012.
- e-01. 前多隼人: えどがわ農業産学公プロジェクト総括報告書(平成18年度~23年度), 2012.
- e-02. 前多隼人: 平成22年度ナマコの食ブランド化推進事業 ナマコの機能性研究業務報告書, 2012.
- e-03. 前多隼人: 大間漁業協同組合・弘前大学共同研究「地域振興のための海洋資源活用に関する研究」報告書, 2012.
- f-01. 前多隼人: 東北地域アグリビジネス創出フェア2011 展示発表, 2011.
- f-02. 前多隼人: FMアップルウェブ「津軽いじん館」出演, 2012.
- f-03. 前多隼人: 弘前産学官連携フォーラム H23年度成果報告会 発表, 2012.
- f-04. 前多隼人: 平成24年度あおりナマコブランド化協議会総会 研修会 講師, 2012.
- f-05. 前多隼人: ドリーム講座(三本木高校)講義, 2012.
- f-06. 前多隼人: 新水産・海洋都市はこだてを支える人材養成 講師, 2012.
- f-07. 前多隼人: 2012年弘前大学シニアサマーカレッジ学生ツアー, 2012.

**【生産環境コース】****青山 正和**

- a-01. Sonoki, T., T. Furukawa, K. Jindo, K. Suto, M. Aoyama and M. A. Sánchez-Monedero: Influence of biochar addition on methane metabolism during thermophilic phase of composting. *J. Basic Microbiol.*, **52**: 1-5, 2012.
- b-01. Karim, S., M. Aoyama: Separation of humic acid constituents by polyacrylamide gel electrophoresis in the presence of concentrated urea using a preparative electrophoresis system. In *Functions of Natural Organic Matter in Changing Environment*, Eds. J. Xu, J. Wu and Y. He, p. 75-77, Zhejiang University Press-Springer, 2012.
- b-02. 青山正和: 腐植, 農文協編, 土をみる生育をみる—ムダのない施肥の基礎知識—, p. 112-113, 農文協, 2012.
- d-01. Karim, S., M. Aoyama: Two-dimensional electrophoresis of humic acids from particulate and mineral-associated organic matter fractions of soils. The 27th Meeting of Japanese Humic Substances Society (Kanazawa University), 2011.
- d-02. 青山正和・Saiful Karim: 分取電気泳動装置を用いた腐植酸の分画. 腐植物質学会第27回講演会(金沢大学), 2011.
- d-03. 青山正和・木村智志・野呂拓未: 畑地における有機栽培が土壌の理化学性に及ぼす影響. 日本土壤肥料学会東北支部講演会(アスパム, 青森), 2012.
- d-04. 青山正和・木村智志・野呂拓未: 畑地における有機栽培が土壌有機物に及ぼす影響. 日本土壤肥料学会2012年度鳥取大会(鳥取大学), 2012.
- d-05. Karim, S., M. Aoyama: Separation of humic acid constituents by polyacrylamide gel electrophoresis in the presence of concentrated urea using a preparative electrophoresis system. The 16th Meeting of International Humic Substances Society (Zhejiang University, Hangzhou, China), 2012.

**赤田 辰治**

- a-01. 武田今日子・吉玉国二郎・赤田辰治：何故ブナの葉は秋に赤くならないのか. 白神研究 8, 9-17, 2011.
- d-01. 井頭千明・大宮泰徳・赤田辰治：ブナにおける花芽形成遺伝子 FT の構造と機能の分子的解析. 東北植物学会第1回大会(岩手大会). 2011. 12. 17.
- d-02. Akada, S., H. Johyu, S. Matsuda : A survey of candidate genes with different roles under various living conditions among 85 members of the beech R2R3-MYB family. 第34回日本分子生物学会年会. 2011. 12. 13.
- d-03. 上祐 瞳・松田修一・杉山善彦・赤田辰治：ブナにおける乾燥応答性 R2R3-MYB の遺伝的多様性とその機能解析. 日本育種学会第121回講演会. 2012. 3. 29.
- d-04. 櫛引はるか・赤田辰治：ダイズにおける貧窒素栄養応答性 R2R3-MYB の機能解析. 日本育種学会第121回講演会. 2012. 3. 30.
- d-05. 寺沢洋平・今井奈保子・赤田辰治・穴井豊昭：逆遺伝学的手法を用いたダイズ Myb 遺伝子の機能解析. 第30回植物細胞分子生物学会(生駒)大会. 2012. 8. 4.

**金児 雄**

- a-01. Kaneko, Y., Yasanga, T., Suzuki, M., Sakurai, S.: Larval fat body cells die during the early pupal stage in the frame of metamorphosis remodeling in *Bombyx mori*. J. Insect Physiol., **57**: 1715-1722, 2011.
- a-02. 金児 雄・比留間潔：発育時期特異的な昆虫幼若ホルモン生合成の制御機構. 比較内分泌学, **37**: 204-211, 2011.
- a-03. Hiruma, H., Kaneko, Y.: Hormonal regulation of insect metamorphosis with special reference to juvenile hormone biosynthesis. Curr. Top. Dev. Biol. (in Press)
- d-01. 金児 雄・比留間潔：脱皮行動誘導ホルモン(ETH)による幼若ホルモン生合成の促進. 日本応用動物昆虫学会第56回大会(奈良市・近畿大学農学部奈良キャンパス), 2012年3月27～29日.
- d-02. 盛 雄治・金児 雄・比留間潔：カイコ Verson's gland の体節特異的な細胞死. 日本応用動物昆虫学会第56回大会(奈良市・近畿大学農学部奈良キャンパス), 2012年3月27～29日.
- d-03. 金児 雄・石原和成・比留間潔：単一細胞の蛹コミットメント. 日本応用動物昆虫学会第56回大会(奈良市・近畿大学農学部奈良キャンパス), 2012年3月27～29日.
- d-04. Hiruma, K., Akitomo, M., Sugime, Y., Kaneko, Y.: The insulin signaling pathway is required for the death of crochete forming cells during pupal metamorphosis. XXIV International Congress of Entomology, August 19-25, 2012. Daegu, Korea.

**佐野 輝男**

- a-01. DiSerio F, Randles JW, Flores R, Owens RA, Sano T, Li S-F, Vidalakis G, and Pallas V: Viroids. In Andrew M.Q. King, Michael J. Adams, Eric B. Carstens, and Elliot J. Lefkowitz, editors: Virus Taxonomy, Oxford: Elsevier, 2011, pp. 1221-1234.
- a-02. He Y-H, Isono S, Shibuya M, Tsuji M, Adkar Purushothama C-R, Tanaka K, Sano T. (2012) Oligo-DNA custom macroarray for monitoring major pathogenic and non-pathogenic fungi and bacteria in the phyllosphere of apple trees. PLoS ONE 7 (3): e34249. doi: 10.1371/journal.pone.0034249.
- a-03. Owens RA, Tech KB, Shao JY, Sano T, Baker CJ. (2012) Global analysis of tomato gene expression during potato spindle tuber viroid infection reveals a complex array of changes affecting hormone signaling, MPMI 25 (4): 582-598.
- a-04. Nekoduka S, Kanematsu S, Tanaka K, Harada Y, Sano T. (2012) Valdensia leaf blight of highbush blueberry caused by *Valdensinia heterodoxa*, a new fungal disease in Japan. J Gen Plant Pathol 78:151-159.
- d-01. 葛西厚史・鳥倉健太・佐野輝男・原田竹雄：ウイロイド(PSTVd)のsiRNA産生形質転換タバコにおけるPSTVd増殖抑制. 平成23年度日本分子生物学会(パシフィコ横浜). 2011年12月14日.
- d-02. 平山和幸・田中和明・佐野輝男：ホップおよびカラハナソウにおけるうどんこ病菌の越冬と伝染. 平成23年度日本植物病理学会東北部会(青森市, 青森市民ホール), 2011年10月31日.
- d-03. 松田考広・Adkar-Purushothama Charith Raj・佐野輝男：ホップ矮化ウイロイドブドウ分離株とそのホップ適応変異体の病原性の比較(2). 平成23年度日本植物病理学会東北部会(青森市, 青森市民ホール), 2011年10月31日.
- d-04. 佐野輝男：ウイロイド病を見分ける. 第5回植物病害診断研究会(日本植物病理学会)(青森市, 青森市民ホール) 2011年11月1日.

- d-05. 佐野輝男：奇跡のリング：有機リング園の葉面微生物及び病原菌の動態。日本土壌微生物学会2011年度大会・シンポジウム（招待講演）（宮城県大崎市，鳴子公民館）2011年11月25日。
- d-06. He Y-H, Isono S, Shibuya M, Tsuji M, Shirakawa A, Adkar Purushothama CR, Tanaka K, Sano T.: Oligo-DNA macroarray for monitoring major pathogenic and non-pathogenic fungi and bacteria in the phyllosphere of apple trees managed under organic and conventional cultural conditions, The 2nd Korea-Japan Joint Symposium, March 27, 2012, Fukuoka Internatinal Congress Center, Fukuoka, Japan.
- d-07. 対馬太郎・宍戸 愛・Adkar Purushothama Charith-Raj・佐野輝男：ダリアから検出されたジャガイモスピンドルチューバーウイルス（PSTVd）欠損分子について，日本植物病理学会大会（福岡市，福岡国際会議場）2012年3月30日。
- d-08. 佐川恭太・Lu Quan-You・Li Shi-Fang・Xie Lian-Hui・対馬太郎・佐野輝男：桑から分離されたウイルス様小環状RNAの分子構造とリボザイム活性，日本植物病理学会大会（福岡市，福岡国際会議場）2012年3月30日。
- d-09. Tsushima T, Sano T. (2012) Pathogenicity and replication competence of PSTVd-like specific deletion molecule and unknown circular RNA molecule, detected from dahlia in Japan. XVth International Congress of Molecular Plant-Microbe Interaction, July 29 - Aug 2, Kyoto International Congress Center, Kyoto, Japan (Poster).
- d-10. Adkar-Purushothama CR, Kasai A, Harada T, Sano T. (2012) Evaluation of RNAi-mediated resistance offered to Potato spindle tuber viroid in transgenic *N. benthamiana* plants expressing different hairpin RNA constructs. XVth International Congress of Molecular Plant-Microbe Interaction, July 29 - Aug 2, Kyoto International Congress Center, Kyoto, Japan (Poster).
- d-11. Sano T. (2012) History, origin, and diversity of hop stunt and hop stunt viroid. III International Humulus Symposium, September 9th - 14th, Zatec, Czech Republic (Invited Speaker).
- d-12. 室崎文美子・張 志想・Adkar-Purushothama Charith Raj・佐野輝男 (2012) ホップ矮化ウイルス-ブドウ及びホップ変異体の感染力とウイルス特異的 small RNA 蓄積パターンの比較。平成24年度（第48回）日本植物病理学会東北部会（山形県鶴岡市，山形大学農学部）2012年9月13日 - 14日。
- d-13. 三土タチアナ・山下一夫・佐野輝男 (2012) リアルタイム RT-PCR法によるニンニク汁液からのリーキ黄色条斑ウイルス (LYSV) の検出。平成24年度（第48回）日本植物病理学会東北部会（山形県鶴岡市，山形大学農学部）2012年9月13日 - 14日。
- d-14. 原田幸雄・福嶋康高・殿内暁夫・田中和明・佐野輝男 (2012) オオバナノエンレイソウを中間宿主とするクサヨシ冠さび病菌の一型。平成24年度（第48回）日本植物病理学会東北部会（山形県鶴岡市，山形大学農学部）2012年9月13日 - 14日。
- d-15. 河野貴幸・水谷房雄・佐山春樹・高柳直幸・佐野輝男 (2012) カンキツウイルス III 接種がウンシュウミカン‘宮川早生’の果実品質に及ぼす効果。平成24年度日本園芸学会秋季大会（福井市）2012年9月22 - 23日。
- d-16. 葛西 厚・Adkar-Purushothama Charith Raj・佐野輝男・原田竹雄 (2012) ウイルス (PSTVd) の siRNA 産生台木上の穂木における PSTVd 増殖に対する抵抗性。平成24年度日本育種学会秋季大会（京都市）2012年9月14 - 15日。
- f-01. 赫 英紅・佐野輝男 (2011) リング葉園に生息する非病原菌と病原菌の動態—慣行栽培園と有機栽培園の比較土と微生物 (Soil Microorganisms) Vol. 65: 104 ~ 108.
- f-02. 竹本周平・佐野輝男 (2012) 小さな小さなウイルス発見物語 リカタン 2012年1月号 63頁。

## 田中 和明

- a-01. Hirayama K, Tanaka K (2011) Taxonomic revision of *Lophiostoma* and *Lophiotrema* based on reevaluation of morphological characters and molecular analyses. Mycoscience 52: 401-412.
- a-02. Raja HA, Tanaka K, Hirayama K, Miller A, Shearer CA (2011) Freshwater Ascomycetes: Two new species of *Lindgomyces* (Lindgomycetaceae, Pleosporales, Dothideomycetes) from Japan and USA. Mycologia 103:1421-1432.
- a-03. Tayone WC, Kanamaru S, Honma M, Tanaka K, Nehira T, Hashimoto M (2011) Absolute Stereochemistry of Novel Isochromanone Derivatives from *Leptosphaeria* sp. KTC 727. Biosci Biotechnol Biochem 75: 2390-2393.
- a-04. Kanamaru S, Honma M, Murakami T, Tsushima T, Kudo S, Tanaka K, Nihei K, Nehira T, Hashimoto M (2012) Absolute Stereochemistry of Altersolanol A and Alterporriols. Chirality 24: 137-146.
- a-05. Kepler RM, Sung GH, Harada Y, Tanaka K, Tanaka E, Hosoya T, Bischoff J, Spatafora JW (2012) Host jumping

- onto close relatives and across kingdom by *Tyrannicordyceps* (Clavicipitaceae) gen. nov. and Ustilaginoidea (Clavicipitaceae). American Journal of Botany 99: 552-561.
- a-06. Yamamoto J, Tanaka K, Ohtaka N, Sato T (2012) Black leaf spot of Japanese persimmon (*Diospyros kaki*), a new disease caused by *Adisciso kaki* sp. nov. Journal of General Plant Pathology 78: 99-105.
- a-07. Schoch CL, Seifert KA, Huhndorf S, Robert V, Spougea JL, Levesque CA, Chenb W, and Fungal Barcoding Consortium (2012) Nuclear ribosomal internal transcribed spacer (ITS) region as a universal DNA barcode marker for Fungi. PNAS 109: 6241-6246 (全155名, うち田中134番目).
- a-08. He Y-H, Isono S, Shibuya M, Tsuji M, Adkar-Purushothama CR, Tanaka K, Sano T (2012) Oligo-DNA custom macroarray for monitoring major pathogenic and non-pathogenic fungi and bacteria in the phyllosphere of apple trees. PLoS ONE 7 (3): e34249. doi: 10.1371/journal.pone.0034249.
- a-09. Nekoduka S, Kanematsu S, Tanaka K, Harada Y, Sano T (2012) Valdensia leaf blight of highbush blueberry caused by *Valdensinia heterodoxa*, a new fungal disease in Japan. Journal of General Plant Pathology 78: 151-159.
- a-10. Honma M, Tanaka K, Konno K, Tsuge K, Okuno T, Hashimoto M (2012) Termination of the structural confusion between plipastatin A1 and fengycin IX. Bioorganic & Medicinal Chemistry 20: 3793-3798.
- a-11. Yasumura R, Tanaka K, Nehira T, Hashimoto H (2012) Structural corrections of photinides A, B and their novel derivatives. Tetrahedron 68: 7991-7996.
- b-01. 田中和明 (2012) 6章-3子のう菌類. 日本進化学会編「進化学事典」(ISBN 978-4-320-05777-7), 共立出版, pp. 175-178.
- d-01. 平山和幸・田中和明・佐野輝男 (2011) ホップおよびカラハナソウにおけるうどんこ病菌の越冬と伝染. 平成23年度日本植物病理学会東北部会(青森市・青森市民ホール), 2011年10月31-11月1日.
- d-02. 佐々木幸江・田中和明・中村文葉・中島千晴 (2011) イヌエンジュ斑点病菌 *Pseudocercospora cladrastidis* の分子系統解析. 平成23年度日本植物病理学会東北部会(青森市・青森市民ホール), 2011年10月31-11月1日.
- d-03. 橋本 陽・佐藤玄樹・田中和明・栗原祐子 (2011) 日本新産種である *Koorchaloma madreya* および *K. novojournalis* について. 平成23年度日本植物病理学会東北部会(青森市・青森市民ホール), 2011年10月31-11月1日.
- d-04. 廣岡裕史・田中和明・升屋勇人・窪野高德 (2012) *Fusarium* 様アナモルフを持つ *Cosmospora sensu lato* の新系統群. 平成24年度日本菌学会関東支部年次大会(千葉県・日本大学薬学部), 2012年4月21日.
- d-05. 橋本 陽・佐藤玄樹・松田考広・平山和幸・田中和明 (2012) *Dinemasporium* 属およびその関連属の分類学的再検討(2). 日本菌学会第56回大会(岐阜市・岐阜大学), 2012年5月26-27日.
- d-06. 平山和幸・弘 佑介・小野寺惇・田中和明 (2012) スポロドキア形成菌 *Berkleasium* 属およびその形態的類似属の系統評価. 日本菌学会第56回大会(岐阜市・岐阜大学), 2012年5月26-27日.
- d-07. 田中和明・鳥谷部綾美・山崎紘司・橋本 陽・平山和幸 (2012) プナ類に寄生する *Scolicosporium* 様菌類の分類学的検討. 日本菌学会第56回大会(岐阜市・岐阜大学), 2012年5月26-27日.
- d-08. 原田幸雄・福嶋康高・殿内暁夫・田中和明・佐野輝男 (2012) オオバナノエンレイソウを中間宿主とするクサヨシ冠さび病菌の一型. 平成24年度日本植物病理学会東北部会(鶴岡市・山形大学農学部), 2012年9月13-14日.
- f-01. 田中和明 (2012) 微小な菌類(カビ類)の新種記載. 第11回日本分類学会連合公開シンポジウム; 種の記載の現場に迫る(東京・東京大学駒場キャンパス), 2012年1月7日.
- f-02. 田中和明 (2012) 利尻島と西表島に住む菌類を比べてみると. 小笠原は“菌類”の宝島: 世界自然遺産のミクロな世界, 講演会, 小笠原環境計画研究所, 父島村役場大広間, 2012年9月12日.
- f-03. 平山和幸・米澤洋朗・田中和明 (2012) 日本新産種 *Dictyosporium bulbosum* および *D. digitatum* (糸状不完全菌類) の記載. 青森自然誌研究 17: 51-54.
- f-04. 佐々木幸江・田中和明・中村文葉・中島千晴 (2012) イヌエンジュ斑点病菌 *Pseudocercospora cladrastidis* の同定と分子系統解析. 青森自然誌研究 17: 55-61.
- f-05. 橋本 陽・佐藤玄樹・田中和明・栗原祐子 (2012) 日本新産種 *Koorchaloma madreya* および *K. novojournalis* (子のう菌門, フンタマカビ綱) の記載. 青森自然誌研究 17: 62-64.

## 比留間 潔

- a-01. Hiruma, K, and Kaneko, Y. (2012). Hormonal regulation of insect metamorphosis with special reference to juvenile hormone biosynthesis. Curr. Top. Dev. Biol., in press. (招待論文)
- a-02. 金児 雄・比留間潔 (2011) 発育時期特異的な昆虫幼若ホルモン合成の制御機構. 比較内分泌学 37, 204-211.

(招待論文)

- b-01. 比留間潔 (2011) 新刊紹介：脱皮と変態の生物学—昆虫と甲殻類のホルモン作用の謎を追う。園部治之・長澤寛通 編著。東海大学出版。日本応用動物昆虫学会誌, 55, 265-267.
- d-01. 比留間潔 (2011). カイコの変態とホルモン—現象から分子へ—。平成23年度日本蚕糸学会・合同大会。2011年11月4-6日。岩手大学(学術シンポジウム招待講演)。
- d-02. Hiruma, K., Akimoto, M., Sugime, Y., and Kaneko, Y. (2012). The insulin signaling pathway is required for the death of crochet forming cells during pupal metamorphosis. XXIV International Congress of Entomology, August 19-25, 2012, Daegu, Korea (招待講演)。
- d-03. 金児 雄・比留間潔 (2012) 脱皮行動誘導ホルモン (ETH) による幼若ホルモン生合成の促進。第56回日本応用動物昆虫学会。2012年3月27-29日。近畿大学。
- d-04. 金児 雄・石原和成・比留間潔 (2012) 単一細胞の蛹コミットメント。第56回日本応用動物昆虫学会。2012年3月27-29日。近畿大学。
- d-05. 盛 雄治・金児 雄・比留間潔 (2012) カイコ Verson's gland の体節特異的な細胞死。第56回日本応用動物昆虫学会。2012年3月27-29日。近畿大学。
- d-06. 横山拓彦・比留間潔・富田秀一郎 (2011) カイコの転写因子 BHR4 のエクダイソン合成に対する影響。第56回日本応用動物昆虫学会。2012年3月27-29日。近畿大学。

## 松山 信彦

- a-01. Shyamal, K.P., Sasaki, C., Matsuyama, N., Noda, K. and Mitra, B.K.: Influence of percolation patterns on growth and yield of rice plants and uptake of cadmium from polluted paddy fields using soil dressing models. *Pedologist*, 54: 222-229, 2011.
- a-02. 佐々木長市・松山信彦・佐瀬 隆・殿内暁夫・Shyamal Kumar Paul・野田香織・山岸洋貴：白神山地の土壤に関する研究 (8), *白神研究*, 8: 50-61, 2011.
- a-03. Hashimoto, Y., Kang, J., Matsuyama, N., and Saigusa, M.: Path analysis of phosphorus retention capacity in allophanic and non-allophanic Andisols, *Soil Sci. Soc. Am. J.* 76: 1-8, 2012.
- a-04. 佐々木長市・松山信彦・久保田正亜・野田香織・角野三好：カドミウム汚染水田の汚染土層厚の相違が稲体のカドミウム濃度および生育収量に及ぼす影響, *農業農村工学会論文集*, 279: 13-20, 2012.
- a-05. Sasaki, C., Matsuyama, N., Endo, A. and Kato, K.: Study on the qualities of spring water and precipitation in the Shirakami Mountains. *SHIRAKAMI-SANCHI*, Vol.1, p.5-14. 2012.
- b-01. 佐々木長市・松山信彦：白神山地の土壤, *白神学入門* (改訂版), 41-45, 白神自然環境研究所編, 2011.
- d-01. 松山信彦・高谷織衣・藤澤春樹・佐々木長市：施肥により強酸性化したアロフェン質黒ボク土の石灰中和, 2012年度日本土壤肥料学会講演会, 2012.
- d-02. 橋本洋平・Jihoon Kang・松山信彦・三枝正彦：アロフェン質と非アロフェン質黒ぼく土のリン酸吸着機構に直接的に関係している土壤化学性の特定：全国671地点のデータのパス解析, 2012年日本ペドロロジー学会講演会, 2012.

## 【園芸農学科】

## 【園芸農学コース】

## 荒川 修

- a-01. Arakawa, O., J. Xu and T. Asada: The relationship between shoot length and utilization of reserve nutrition after heading cuts in young apple trees. *Acta Hort.* 903: 879-884. 2011.
- d-01. 荒川 修・吉田沙代・田中紀充：光と低温はリンゴ‘紅の夢’の果肉のアントシアニン生成を促進する。平成24年度園芸学会春季大会(大阪府立大学)。園学研. 11別1: 262. 2012.
- d-02. 田中紀充・岸本結香・和田雅人・守谷(田中)友紀・村松 昇・小森貞男・荒川 修：リンゴの品種間における単為結果能力と果実肥大。平成24年度園芸学会春季大会(大阪府立大学)。園学研. 11別1: 263. 2012.
- d-03. 小林 達・向後智陽・荒川 修・辻 渉・安 萍・松本和浩：NaCl 処理がリンゴ台木種の生育に及ぼす影響。平成24年度園芸学会春季大会(大阪府立大学)。園学研11別1: 265. 2012.
- d-04. 田中紀充・佐藤 充・松本省吾・守谷(田中)友紀・荒川 修：リンゴの異なる授粉処理が種子形成と果実肥大に及ぼす影響。園芸学会東北支部大会(福島市)。園芸学会東北支部 平成24年度大会研究発表要旨：19-20. 2012
- d-05. 向後智陽・小林 達・藤田知道・佐藤早希・前多隼人・荒川 修・松本和浩：果肉の赤いリンゴ‘紅の夢’、‘御所川原’の果肉着色に及ぼす光の影響。平成24年度園芸学会秋季大会(福井県立大学)。園学研11別2: 331. 2012.

## 鈴木 裕之

- a-01. Suzuki, H., Koyama, K., Kabashima, K., Fang, J. and Matsuzaki, M.: Temporary inhibition of germinal vesicle breakdown by Rho kinase inhibitor Y-27632 is detrimental to oocyte maturation. *J. Mamm. Ova. Res.* 28: 126-130. 2011.
- a-02. Fang, J., Matsuzaki, M., Suzuki, H., Cai, Y., Horiguchi, K. and Takahashi, T.: Effects of lactic acid bacteria and urea treatment on fermentation quality, digestibility and ruminal fermentation of roll bale rice straw silage in wethers. *Grassland Sci.* 58: 73-78. 2012.
- a-03. Kang, D.J., Seo Y.J., Saito, T., Suzuki, H. and Ishii, Y.: Uptake and translocation of 133 cesium in napiergrass (*Pennisetum purpureum* Schum.) under hydroponic conditions. *Ecotoxicology Environmental Safety.* 82: 122-126. 2012.
- a-04. Kabashima, K., Yoshinaga, D., Fang, J., Matsuzaki, M. and Suzuki, H.: Cell cycle-dependent dynamics of cytoskeleton involving mitochondrial redistribution in hamster embryos. *Reproduction in Domestic Animals*, 2012, Jun 27. doi: 10.1111/j. 1439- 0531. 2012. 02143. x
- d-01. 房 家琛・木村 中・森内晴也・近藤真大・高橋信二・鈴木裕之・松崎正敏：リンゴジュース粕を活用した混合発酵飼料給与が黒毛和種去勢牛の肥育成績に及ぼす影響。第49回肉用牛研究会(山形市)。2011.
- d-02. 柁嶋克哉・房 家琛・松崎正敏・鈴木裕之：ハムスター卵成熟過程におけるミトコンドリアの再配置は、微小管ではなくアクチン繊維によって制御される。日本哺乳動物卵子学会第53回大会(千里ライフサイエンスセンター)。2012.
- d-03. 木村 中・小笠原陵・白戸 賢・高橋信二・米内美晴・柴 伸弥・房 家琛・鈴木裕之・松崎正敏：リンゴ粕混合サイレージ給与肥育がめん羊の血中脂質成分濃度および脂肪酸組成に及ぼす影響。日本畜産学会第115回大会(名古屋大学)。2012.
- d-04. 柁嶋克哉・房 家琛・松崎正敏・鈴木裕之：アクチン繊維がハムスター卵成熟過程のミトコンドリアを再配置する。東北畜産学会第62回大会(秋田市)。2012.
- d-05. 小澤那奈・茶畑 舞・房 家琛・檜野 栞・松崎未幸・秋元慶彦・鈴木裕之・松崎正敏：めん羊妊娠後期の低タンパク給与が血液成分および分娩成績に及ぼす影響。東北畜産学会第62回大会(秋田市)。2012.
- d-06. 中嶋美乃・鈴木裕之・松崎正敏：哺乳中の栄養制御が離乳期および性成熟期のマウス肝臓における遺伝子発現に及ぼす影響。東北畜産学会第62回大会(秋田市)。2012.
- d-07. 柴 伸弥・松崎正敏・房 家琛・鈴木裕之・米内美晴・今成麻衣・渡邊 彰：リンゴジュース粕アルコール発酵飼料の給与が日本短角種肥育牛の腰最長筋の肉質に及ぼす影響。東北畜産学会第62回大会(秋田市)。2012.
- d-08. 房 家琛・木村 中・森内晴也・近藤真大・鈴木裕之・松崎正敏：リンゴジュース粕混合発酵飼料を多給した黒毛和種経産牛と日本短角種去勢牛の肥育成績。第50回肉用牛研究会(宮崎市)。2012.

**張 樹槐**

- a-01. Xuan Luo, Teruo Takahashi, Koki Kyo, Shuhuai Zhang: Wavelength selection in vis/NIR spectra for detection of bruises on apples by ROC analysis, *Journal of Food Engineering*. 109 (3): 457-466. 2012.
- d-01. Xuan Luo, Teruo Takahashi, Shuhuai Zhang: Wavelength Selection in Visible and Near Infrared Spectra for Detection of Bruises on Apples. 2012 International Conference on Agricultural, Food and Biological Engineering (AFBE 2012), May 11-13, Guangzhou China. 2012.
- d-02. 野上規朗・高橋照夫・張 樹槐：ステレオ視と KINECT センサの併用による農産物の三次元計測. 農業環境工学関連学会2012年合同大会 (CDROM): 43. 2012.
- d-03. 高橋照夫・張 樹槐：イネ病状画像の特徴解析による Web 診断支援. 農業環境工学関連学会2012年合同大会 (CDROM): 58. 2012.
- d-04. 細川和也・張 樹槐・福地 博：分光計測によるモモ果実の品質評価に関する研究. 農業環境工学関連学会2012年合同大会 (CDROM): 58. 2012.
- d-05. 張 樹槐・松井佳之・福地 博：可視近赤外分光計測によるリンゴ打撲傷の検出に関する研究. 平成24年度農業機械学会東北支部大会 研究発表会要旨集 : 41-42. 2012.

**松崎 正敏**

- a-01. Suzuki, H., Koyama, K., Kabashima, K., Fang, J., Matsuzaki, M.: Temporary inhibition of germinal vesicle breakdown by Rho kinase inhibitor Y-27632 is detrimental to oocyte maturation. *Journal of Mammalian Ova Research*. 28: 126-130.
- a-02. Fang, J., Matsuzaki, M., Suzuki, H., Yimin, C., Horiguchi, K., Takahashi, T.: Effects of lactic acid bacteria and urea treatment on fermentation quality, digestibility and ruminal fermentation of roll bale rice straw silage in wethers. *Grassland Science*, 58: 73-78.
- a-03. Kabashima, K., Yoshinaga, D., Fang, J., Matsuzaki, M., Suzuki, H.: Cell cycle-dependent dynamics of cytoskeleton involving mitochondrial redistribution in hamster embryos. *Reproduction in Domestic Animals*, doi: 10.1111/j.1439-0531.2012.02143.x. [Epub ahead of print].
- d-01. 房 家琛・木村 中・森内晴也・近藤真大・高橋信二・鈴木裕之・松崎正敏：リンゴジュース粕を活用した混合発酵飼料給与が黒毛和種去勢牛の肥育成績に及ぼす影響. 第49回肉用牛研究会 (山形市). 2011.
- d-02. 木村 中・小笠原陵・白戸 賢・高橋信二・米内美晴・柴 伸弥・房 家琛・鈴木裕之・松崎正敏：リンゴ粕混合サイレージ給与肥育がめん羊の血中脂質成分濃度および脂肪酸組成に及ぼす影響. 日本畜産学会115回大会 (名古屋大学). 2012.
- d-03. 小澤那奈・茶畑 舞・房 家琛・檜野 栞・松崎未幸・秋元慶彦・鈴木裕之・松崎正敏：めん羊妊娠後期の低タンパク給与が血液成分および分娩成績に及ぼす影響. 第62回東北畜産学会大会 (秋田市). 2012.
- d-04. 中嶋美乃・鈴木裕之・松崎正敏：哺乳中の栄養制御が離乳期および性成熟期のマウス肝臓における遺伝子発現に及ぼす影響. 第62回東北畜産学会大会 (秋田市). 2012.
- d-05. 柴 伸弥・松崎正敏・房 家琛・鈴木裕之・米内美晴・今成麻衣・渡辺 彰：リンゴジュース粕アルコール発酵飼料の給与が日本短角種肥育牛の腰最長筋の肉質に及ぼす影響. 第62回東北畜産学会大会 (秋田市). 2012.
- d-06. 梶嶋克哉・房 家琛・松崎正敏・鈴木裕之：アクチン繊維がハムスター卵成熟過程のミトコンドリアを再配置する. 第62回東北畜産学会大会 (秋田市). 2012.
- d-07. 泉谷眞実・房 家琛・石塚哉史・吉仲 玲・松崎正敏：中国における果実バイオマスの利活用システムに関する事例分析—りんごジュース製造副産物のリサイクル経路の日中比較研究—. 2012年度東北農業経済学会宮城大会 (東北大学). 2012.
- d-08. 房 家琛・木村 中・森内晴也・近藤真大・鈴木裕之・松崎正敏：リンゴジュース粕混合発酵飼料を多給した黒毛和種経産牛と日本短角種去勢牛の肥育成績. 第50回肉用牛研究会 (宮崎市). 2012.

**川崎 通夫**

- a-01. 川崎通夫・川村陽一・岩澤紀生・石川隆二：青森県育成・奨励水稻品種における胴割れ米の発現と構造に関する形態学的研究. *日本作物学会東北支部会報*. 54: 29-32. 2012.
- d-01. 木村駿佑・對馬優聖・千田峰生・川崎通夫：鉛水溶液で水耕したサトイモの一次根における鉛局在性と結晶細胞管状配列との関係. *日本作物学会第233回講演会 (東京農工大学)*. 2012.
- d-02. 田中康史・川崎通夫・大河 浩：ラン色細菌プロトン輸送体タンパク質の植物への導入と導入植物の生長解析.

- 東北植物学会第1回大会(岩手大学). 2011.
- d-03. 川崎通夫・イスラム モハンマド ナズルル: 青森県において栽培されている「毛豆」の形質的特徴に関する研究. 日本作物学会東北支部第55回講演会(秋田県立大学). 2012.
- d-04. 松澤めぐみ・西村さつき・乗田理恵・川崎通夫・千田峰生: 着色ダイズにおける種皮着色過程の解析. 日本育種学会第121回講演会(宇都宮大学). 2012.
- d-05. 佐野麻衣子・松澤めぐみ・森あゆみ・穴井豊昭・川崎通夫・千田峰生: 黄ダイズ品種フクユタカの臍着色形質に関する解析. 日本育種学会121回講演会(宇都宮大学). 2012.
- d-06. Kawasaki, M., Yoshida, H. and Takahashi, K.: Morphological characteristics and functional differentiation of amyloplasts in tubers of yams. 6th International Crop Science Congress (Fundaparque event center, Bento Gonçalves, Brazil). 2012.
- d-07. 内村ゆき美・川崎通夫・殿内暁夫: 水田土壌から分離した嫌気性アメーバの分類学的研究. 第27回日本微生物生態学会大会(京都大学). 2011.
- d-08. 川崎通夫・川村陽一・石川隆二: 青森県育成・奨励水稻品種における胴割米の発現と構造に関する形態学的検討. 日本作物学会東北支部第54回講演会(山形テルサ). 2011.
- d-09. Gima, K., Akaishi, Y., Kawamura, Y., Kawasaki, M. and Ishikawa, R.: Introduction of tolerant gene for grain quality to global warming in rice. 日本学術振興会 アジア研究教育拠点事業「東アジア植物遺伝資源シンポジウム」(岡山大学). 2011.
- d-10. Gima, K., Akaishi Y., Kawamura Y., Kawasaki M. and Ishikawa R.: Introduction of tolerant gene for grain quality to global warming in rice. Fifth anniversary memorial symposium for mutual exchange program between faculty of agriculture and life science, Hirosaki university and college of agronomy and biotechnology, China agricultural university (弘前大学). 2011.
- d-11. 川崎通夫・瀧澤美聡・兼平沙季・崎尾実香・本多和茂・イスラム モハンマド ナズルル・須藤宏樹・野澤 樹・秋田祐介・鳴海一成: ナガイモとヤマノイモにおけるイオンビームを用いた突然変異体作出に関する研究. 日本作物学会第234回講演会(東北大学). 2012.
- d-12. 儀間構造・赤石有加・川崎通夫・川村陽一・田淵宏朗・吉田健太郎・夏目 俊・小杉俊一・寺内良平・石川隆二: 恋ほのかの高度胴割れ抵抗性の遺伝解析とWGSによるゲノム構成情報の利用. 日本育種学会第121回講演会(宇都宮大学). 2012.
- d-13. 内村ゆき美・川崎通夫・殿内暁夫: Mastigamoeba balamuthiと日本の水田土壌から分離した嫌気性アメーバAF065-Y株の特徴比較研究. 第28回日本微生物生態学会大会(豊橋技術大学). 2012.
- f-01. Kawasaki, M., Hosokawa, S., Yoshida, S., Takahashi, K. and Suto, H.: Relations between the amyloplast sedimentation in tubers and the morphogenesis of tubers in yams. Proceeding, The 7th Asian crop science association conference. 2011.
- f-02. 川崎通夫: 青森県で栽培されている毛豆の栽培用種子について. 青森毛豆研究会(弘前市). 2012.
- f-03. 川崎通夫: NHK総合テレビ番組名「あさイチ」. サトイモ球茎の粘液管に関する取材協力. データ提供, および, コンピューターグラフィックの監修・放映, 2012.

## 本多 和茂

- a-01. T. Maeda, T. Jishi, K. Honda, H. Araki, T. Suzuki, M. Suzuki: Effects of blanching method on sugar and protodioscin contents of white asparagus spears. J. Japan Soc. Hort. Sci., 81 (2): 166-170. 2012.
- a-02. T. Maeda, K. Honda, T. Jishi, T. Suzuki, M. Suzuki: Effects of blanching method on hardness and quality components of white asparagus (*Asparagus officinalis* L.) spears harvested in rootstock-planting: "Fusekomi" forcing culture. Acta Hort. 936: 277-282. 2012.
- c-01. Y. Hase, S. Nozawa, T. Okada, I. Asami, T. Nagatani, Y. Matsuo, A. Kanazawa, K. Honda, I. Narumi: Development of ion beam breeding technology in plants and creation of useful plant resources. JAEA-Review. 43: 100. 2011.
- d-01. 長谷川弘樹・成田 香・前田智雄・小村晶紀・本多和茂・山口貴之: アスパラガス伏せ込み促成栽培における若茎のルチン含量および外観品質に及ぼす補光処理の影響. 園芸学会(大阪府立大). 園学研. 11別1: 403. 2012.
- d-02. 川崎通夫・瀧澤美聡・兼平沙季・崎尾実香・本多和茂・イスラム モハンマド ナズルル・須藤宏樹・野澤 樹・秋田祐介・鳴海一成: ナガイモとヤマノイモにおけるイオンビームを用いた突然変異体作出に関する研究. 日本作物学会第234回講演会(東北大学). 2012.
- d-03. 山岸洋貴・藤原久司・本多和茂: 多年生草本植物エゾエンゴサクにおける葉形態の地理的変異について. 第59回

日本生態学会大会(大津). 2012.

- e-01. 本多和茂：白神山地に自生する日本固有植物「シラネアオイ」の繁殖生態の解明—その取り組みと課題—. 弘前大学白神研究会 第9回総会・研究報告会. 2012.
- f-01. 本多和茂. 植物の花のつくりと花粉の観察. 青森県教育委員会. 平成24年度サイエンス・サマーキャンプ(中学生担当). 2012.
- f-02. 本多和茂. 「野生の花々を保護 白神山地で研究」. NHK青森「あっぷるワイド」2012年5月25日放送. 2012.

## 前田 智雄

- a-01. Jishi, T., T. Maeda, H Araki: Comparison of external quality and hardness of white asparagus spears produced by two different blanching methods. J. Japan. Soc. Hort. Sci. 81 (1): 54-59. 2012.
- a-02. Maeda, T., T. Jishi, K. Honda, H. Araki, T. Suzuki, M. Suzuki: Effects of blanching method on sugar and protodioscin contents of white asparagus spears. J. Japan. Soc. Hort. Sci. 81 (2): 166-170. 2012.
- a-03. Motoki, S., H. Kitazawa, T. Maeda, T. Suzuki, H. Chiji, E. Nishihara, Y. Shinohara: Effects of various asparagus production methods on rutin and protodioscin contents in spears and cladophylls. Biosci. Biotechnol. Biochem. 76 (5): 1047-1050. 2012.
- a-04. Maeda, T., K. Honda, T. Jishi, T. Suzuki, M. Suzuki: Effects of blanching method on hardness and quality components of white asparagus (*Asparagus officinalis* L.) spears harvested in rootstock-planting: "Fusekomi" forcing culture. Acta Hort. 936: 277-282. 2012.
- b-01. 前田智雄：園芸学の基礎(鈴木正彦編)：第6章(p179-185). 農文協. 2012.
- d-01. Maeda, T.: Our Breeding Strategy of Red Pepper 'Hirosaki Zairai' —A Special Local Variety—. Fifth anniversary memorial symposium for mutual exchange program between faculty of agriculture and life science, Hirosaki university and college of agronomy and biotechnology, China agricultural university (弘前大学). 2011.
- d-02. 二階堂華那・地子 立・鈴木 卓・前田智雄・横田富男・荒木 肇：アスパラガス若茎の品質保持に対する雪室貯蔵の有効性. 園芸学会(大阪府立大学). 園学研. 11別1: 117. 2012.
- d-03. 長谷川弘樹・成田 香・前田智雄・小村晶紀・本多和茂・山口貴之：アスパラガス伏せ込み促成栽培における若茎のルチン含量および外観品質に及ぼす補光処理の影響. 園芸学会(大阪府立大学). 園学研. 11別1: 403. 2012.
- d-04. 安原里美・志村華子・前田智雄・鈴木 卓：アスパラガスにおけるフラボノイド生合成遺伝子の単離および発現解析. 園芸学会(福井県立大学). 園学研. 11別2: 209. 2012.

## 福地 博

- d-01. 張 樹槐・松井佳之・福地 博：可視近赤外分光計測によるリンゴ打撲傷の検出に関する研究. 農業機械学会東北支部大会(宮城大学). 2012.
- d-02. 細川和也・張 樹槐・福地 博：分光計測によるモモ果実の品質評価に関する研究. 農業環境工学関連学会2012年合同大会(宇都宮大学). 2012.

## 田中 紀充

- d-01. 和田雅人・耳田直純・田中紀充・守谷(田中)友紀・本多親子・岩波 宏・小森貞男：リンゴ MdFT 遺伝子の花成制御機構の解析. 第53回日本植物生理学会年会(京都産業大学). 2012.
- d-02. 小森貞男・加藤 藍・浦中慶大・高岸香里・村松 昇・田中紀充・和田雅人・渡邊 学・壽松木章：リンゴの受精が結実に及ぼす影響. 園芸学会(大阪府立大学). 園学研. 11別1: 60. 2012.
- d-03. 荒川 修・吉田沙代・田中紀充：光と低温はリンゴ「紅の夢」の果肉のアントシアニン生成を促進する. 園芸学会(大阪府立大学). 園学研. 11別1: 262. 2012.
- d-04. 田中紀充・岸本結香・和田雅人・守谷(田中)友紀・村松 昇・小森貞男・荒川 修：リンゴの品種間における単為結果能力と果実肥大. 園芸学会(大阪府立大学). 園学研. 11別1: 263. 2012.
- d-05. 和田雅人・田中紀充・守谷(田中)友紀・本多親子・岩波 宏・耳田直純・小森貞男：MdPISTILLATA 抑制組換えリンゴの作出. 第30回日本植物細胞分子生物学会(生駒)大会・シンポジウム(奈良先端大学). 2012.
- d-06. 田中紀充・佐藤 充・松本省吾・守谷(田中)友紀・荒川 修：リンゴの異なる受粉処理が種子形成と果実肥大に及ぼす影響. 園芸学会東北支部大会(福島市). 園芸学会東北支部 平成24年度研究発表要旨：19-20. 2012.
- d-07. 和田雅人・耳田直純・田中紀充・守谷(田中)友紀・本多親子・岩波 宏・小森貞男：MdFT2過剰発現組換えリ

ングの解析. 園芸学会(福井県立大学). 園学研. 11別2: 127. 2012.

## 【食農経済コース】

### 神田 健策

- c-01. 神田健策: 島善鄰と青森のりんご栽培. 弘前大学 知の散歩道: 181-191. 弘前大学出版会. 2012.  
f-01. 神田健策: 第26回JA全国大会組織協議案を読み解く. 経営実務 2012増刊号: 4-10. 全国共同出版. 2012.

### 渋谷 長生

- a-01. 渋谷長生: 農商工連携における「組織間媒介組織」の機能. 農村経済研究第29巻第2号: 101-108. 2011.  
c-01. 渋谷長生: 第9章 流通・経済. ナマコ学—生物・産業・文化—: 143-168. 成山堂書店. 2012.  
f-01. 渋谷長生: なぜ菅前首相はTPP参加を表明したか～前農林水産副大臣篠原孝氏の証言～. あおもり農業62巻11号: 80-81. 2011.  
f-02. 渋谷長生: 環太平洋経済連携協定(TPP)交渉参加に反対する東北地方の農業経済学研究者有志の声明. あおもり農業62巻12号: 80-82. 2012.  
f-03. 渋谷長生: 公務員バッシングを危惧する. あおもり農業63巻1号: 84-85. 2012.  
f-04. 渋谷長生: 農業への評価をきちんとしよう. あおもり農業63巻2号: 72-74. 2012.  
f-05. 渋谷長生: 農産物直売所のレジ担当者はどんな接客を行っているのか. あおもり農業63巻3号: 72-73. 2012.  
f-06. 渋谷長生: 弘前大学は青森県の食を考える「食ビジョン研究所」を作ってはどうか. あおもり農業63巻4号: 106-109. 2012.  
f-07. 渋谷長生: 在来津軽「清水森ナンバ」ブランド確立研究会会長の役割を探る. あおもり農業63巻5号: 104-105. 2012.  
f-08. 渋谷長生: 「国益」という言葉は守るべき内容を曖昧にしている. あおもり農業63巻6号: 90-91. 2012.  
f-09. 渋谷長生: TPP参加問題に絡む官僚の行動に注意すべきだ. あおもり農業63巻7号: 86-87. 2012.  
f-10. 渋谷長生: 東日本大震災からの復興の現段階—特に水産復興等について—. あおもり農業63巻8号: 94-95. 2012.  
f-11. 渋谷長生: 少子高齢化社会到来で農業・農村にはどんな変化が生まれるか. あおもり農業63巻9号: 84-85. 2012.  
f-12. 渋谷長生: ギャル, ウギャルを知っていますか. あおもり農業63巻10号: 92-94. 2012.

### 石塚 哉史

- a-01. 石塚哉史: 関税制度移行下におけるこんにゃく貿易の変容に関する一考察—ミャンマー・中国産こんにゃくの対日輸出を中心に—. 弘前大学農学生命科学部学術報告. 14: 1-11. 2012.  
a-02. 石塚哉史・相良百合子・大島一二: 日系食品企業における中国国内販売事業の今日的展開—山東省の事例を中心に—. 農林業問題研究. 186: 110-115. 2012.  
a-03. 石塚哉史: 八幡平市における切花輸出の現段階と課題に関する一考察—安代りんどうの事例を中心に—. 農村経済研究. 61: 37-43. 2012.  
a-04. 石塚哉史: ながいも産地における輸出戦略の再編. 農業市場研究. 82: 49-54. 2012.  
c-01. 西尾 漠・小島あずさ・並河信太郎・石塚哉史・桂 幸一・竹本 伸・北城睦美・岡部陽造: 環境・公害と食教育. 日本の教育—第61集—: 251-262. 2012.  
d-01. 石塚哉史・相良百合子・大島一二: 日系食品企業における中国国内販売事業の今日的展開—山東省の事例を中心に—. 第61回地域農林経済学会大会(愛媛大学). 2011.  
d-02. 成田拓未・石塚哉史: 日本産りんごにおける中国輸出の展望と課題—広東省広州市の事例—. Fifth anniversary memorial symposium for mutual exchange program between faculty of agriculture and life science, Hirosaki university and college of agronomy and biotechnology, China agricultural university(弘前大学). 2011.  
d-03. 石塚哉史: 農産物加工業における輸出戦略の現段階と課題に関する一考察. 2012年度日本農業市場学会大会(広島大学). 2012.  
d-04. 相良百合子・石塚哉史: 小規模小豆産地における地域ブランド化戦略の現状と課題—「能登大納言」の事例を中心に—. 2012年度日本農業市場学会大会(広島大学). 2012.  
d-05. 石塚哉史・相良百合子: 食品企業による対日輸出野菜戦略の今日展開と課題. 第48回東北農業経済学会宮城大会(東北大学). 2012.

- e-01. 石塚哉史：食の問題。2011年母と女性教職員の会全国集会報告集(日本教職員組合)：64-67. 2011.
- e-02. 石塚哉史・神代英昭・相良百合子：財団法人日本豆類基金協会「平成23年度豆類振興事業(雑豆需要促進研究)」小豆における地域ブランド戦略の現段階と課題に関する実証的研究成果報告書：1-78. 2012.
- f-01. 石塚哉史：中国産食品の輸入と日本。弘前大学生涯学習教育研究センター・大間町教育委員会生涯学習講演会「外国事情と日本」(大間町総合文化センター)。2011.
- f-02. 石塚哉史：農産物等輸出支援事業—重点化進め、新規市場開拓を一。農業共済新聞「ひと意見」：2011年11月16日付第2917号。2011.
- f-03. 石塚哉史：国際化時代における農産物ブランド化。つがる弘前農業協同組合大鰐地区総代連絡協議会。2012.
- f-04. 石塚哉史：農産物輸出産地における農協事業の展開と課題に関する実証的研究。平成22年度J A研究奨励助成対象報告会(社団法人J C総研)。2012.
- f-05. 石塚哉史：特設テーマ科目の現場から—弘前大学による食育とは?—。21世紀教育センターニュース。19: 2-3. 2012.
- f-06. 石塚哉史：農産物輸出産地における農協事業の展開と課題に関する実証的研究。平成23年度青森県農業経営研究協会農業経営研究等支援事業成果発表会(ラ・プラス青い森)。2012.
- f-07. 石塚哉史：青果物輸出の効果と産地・輸出先市場の課題。2012年度日本農業市場学会大会セッション・コメンテーター(広島大学)。2012.
- f-08. 石塚哉史：中国産食品の輸入と日本。弘前大学生涯学習教育研究センター・むつ市教育委員会生涯学習講演会「青森の国際化を考える」(下北文化会館)。2012.
- f-09. 石塚哉史：中国におけるにんにく・ごぼうの生産・輸出動向と青森県の産地対応について。青森県国際農友会「国際農業講演会」(ウェディングプラザアラスカ)。2012.
- f-10. 石塚哉史：食の安全・安心と日本農業を巡る情勢。第18回日教組栄養教職員部近畿ブロック学習会(ホテルアウィーナ大阪)。2012.

## 泉谷 眞実

- a-01. 泉谷眞実：2010年農林業センサスからみる東北農業の構造。農村経済研究。第30巻第1号：5-13. 2012.
- d-01. 泉谷眞実・房 家琛・石塚哉史・吉仲 怜・松崎正敏：中国におけるりんご果汁加工副産物のリサイクル経路に関する事例分析。東北農業経済学会宮城大会(東北大学)。2012.
- d-02. 泉谷眞実・石塚哉史・吉仲 怜：イネバイオマスとしての米ぬかの発生と利用の特徴—米ぬかのリサイクル経路の解明—。2012年度日本農業市場学会大会(広島大学)。2012.
- d-03. 杉村泰彦・小糸健太郎・泉谷眞実・柳 京熙：首都圏の大型卸売市場における食品廃棄物の発生と処理：3カ国の比較分析。2012年度日本農業市場学会大会(広島大学)。2012.

## 武田 共治

### 吉仲 怜

- a-01. 長門雄治・吉仲 怜：市町村主導による鳥獣害対策の現状と農家の対策評価。農村経済研究。第29巻第2号：50-55. 2011.
- a-02. 吉仲 怜：畑作経営に対する経営所得安定対策の検証と土地利用に与えた影響。農業研究。第24号：205-225. 2011.
- c-01. 吉仲 怜・横田香苗：相次ぐ飼料生産基盤の設立～青森県における設立事例と農家評価～。畜産の情報。2012年9月号(No.275)：57-72. 2012.
- d-1. 小沢 互・宮路広武・吉仲 怜・藤科智海：米産地の新規需要米対応の現状と課題。日本農業経済学会(九州大学)。2012.
- d-2. 佐々木秀幸・渋谷長生・吉仲 怜：体験型修学旅行における生徒・農家間の意識差と行動。東北農業経済学会宮城大会(東北大学)。2012.
- d-3. 森瀬礼菜・渋谷長生・吉仲 怜：農産物直売所におけるレジ接客の現状と課題。東北農業経済学会宮城大会(東北大学)。2012.
- e-1. 吉仲 怜：秋田県北部の事例をもとにした飼料用米生産の農業経営と地域社会に与える効果との比較。自給飼料を基盤とした国産畜産物の高付加価値化技術の開発。農林水産省委託プロジェクト研究平成23年度課題成績書：329-330. 2012.

## 【地域環境工学科】

## 泉 完

- a-01. 泉 完・菊地真弘\*・加藤 幸・東 信行：河川水を用いたヤマメ稚魚の尾部の動きと遊泳速度，農業農村工学会論文集，278: 99-107, 2012.04. (\*JR東日本仙台支社)
- d-01. 泉 完・山村真弘\*・加藤 幸・東 信行：フィールドにおけるイワナ稚魚の尾部の運動と遊泳速度，平成23年度農業農村工学応用水理研究部会講演集，45-50, 2011.12. (\*JR東日本仙台支社)
- d-02. 泉 完・大田敏貴\*：河川におけるスタミナトンネルを用いたシロウオの尾ひれの運動について，平成24年度農業農村工学会大会講演要旨集，250-251, 2012.09. (\*長野県松本地方事務所)
- f-01. 泉 完：川の生態系を守るための魚道を知っていますか？—魚道の水理特性と魚の遡上遊泳行動—，「頭首工の魚道」技術研究会（東海農政局土地改良技術事務所）2012. 02.
- f-02. 泉 完：連載講座—「魚道に関する最新の研究」—，ホットライン東海（4月号～9月号），東海農政局土地改良技術事務所，2012.

## 工藤 明

- a-01. 庄司 諭\*・倉島栄一\*\*・工藤 明：分布型流出モデルのパラメータからみたブナ原生林流域の洪水流出の特性，農業農村工学会論文集 No.275：51-58, 2011. 10. (\*岩手大学大学院連合農学研究科，\*\*岩手大学農学部)
- c-01. 工藤 明：白神山地は「緑のダム」になり得るか．白神学入門：64-69, 弘前大学出版会，2012.04.
- d-01. 工藤 明・高橋康平・倉島栄一\*：世界自然遺産白神山地における降雨時の流出負荷特性について，第19回雨水資源化システム学会講演要旨集：1-6, 2011. 11. (\*岩手大学農学部)
- e-01. 工藤 明：平成23年度農業用水水源林水質調査報告書，青森県農林水産部，全155頁，2012. 03.

## 佐々木 長市

- a-01. 佐々木長市・松山信彦・佐瀬 隆・殿内暁夫：白神山地の土壤に関する研究(8)，白神研究8号：50-61, 2011.
- a-02. 村上 章・佐々木長市・中川進平・太田誠仁：地下水位制御による土壤の酸化還元がダイズの生育収量およびカドミウム吸収に及ぼす影響，土壤の物理性，199: 29-38, 2012.
- a-03. Sasaki C, Sasaki K, Matsuyama N, Endo A, and K. Kato: Study on the qualities of spring water and percolation in the Shirakami Mountains, HIRAKAMI-SANCHI, 1: 5-14, 2012.
- a-04. 佐々木長市・松山信彦・久保田正亜・野田香織・角野三好：カドミウム汚染水田の汚染度層厚の相違が稲体のカドミウム濃度および生育収量に及ぼす影響，農業農村工学会論文集80(3)：13-20, 2012.
- b-01. 佐々木長市，松山信彦他12名：白神学入門（白神山地の土壤），弘前大学出版会：41-45, 2012.
- d-01. 佐々木長市・佐々木喜市・松山信彦：Haque Md.Zahidul：客土を持つカドミウム汚染水田の浸透型が稲体のカドミウム濃度に及ぼす影響農業農村工学会平成24年度大会講演要旨集，345-346, 2012.

## 高橋 照夫

- a-01. X.Luo, T.Takahashi, K.Kyo, S.H.Zhang: Wavelength selection in vis/NIR spectra for detection of bruises on apples by ROC analysis, Journal of Food Engineering, 109 (3): 457-466, 2012. 04.
- d-01. 野上規朗・高橋照夫・張 樹槐：ステレオ視とKINECTセンサによる農作物の三次元位置計測の事例，農業機械学会東北支部大会研究発表会要旨集：27-28, 2012. 08.
- d-02. 野上規朗・高橋照夫・張 樹槐：ステレオ視とKINECTセンサの併用による農産物の三次元計測，農業環境工学関連学会2012年合同大会講演要旨集 CD-ROM: E63.pdf, 2012. 09.
- d-03. 高橋照夫・張 樹槐：イネ病状画像の特徴解析によるWeb診断支援，農業環境工学関連学会2012年合同大会講演要旨集 CD-ROM: P22.pdf, 2012. 09.

## 檜垣 大助

- a-01. Miyagi, T. Higaki, D., Yagi, H., Dishida, S., Chiba, N., Umemura, J., and Sato, G.: Reconnaissance report on landslide disasters in northeast Japan following the M9 Tohoku Earthquake., Landslides 8, 339-342, 2011.
- a-02. Higaki, D. and Sato, G. : Erosion and sedimentation caused by Glacial Lake outburst Floods in the Nepal and Bhutan Himalayas, Global Environmental Research, 16-1, 71-16, 2012.
- a-03. 森屋 洋・檜垣大助：秋田県谷地地すべり地域の地形発達過程，季刊地理学，64-2, 49-59.

- b-01. 檜垣大助：第1章1.5 岩手・宮城内陸地震(2008)による天然ダム, pp.24-29, 古今書院, 2011.
- b-02. 檜垣大助・白石睦弥・古澤和之(2011)：第2章2.7 寛政西津軽地震(1793)による追良瀬川上流の天然ダム, 水山高久監修「日本の天然ダムと対応策」, pp.69-73, 古今書院, 2011.
- b-03. 檜垣大助・井上公夫(2011)第2章2.8 山形県真室川町大沢地すべりによる河道閉塞(1877), 水山高久監修「日本の天然ダムと対応策」, pp.74-77, 古今書院, 2011.
- b-04. 檜垣大助(2012) 豪雪と強風がつくりだす山の景観「飯豊山」, 小泉武栄編「図説 日本の山」, pp.42-46, 朝倉書店.
- b-05. Ghimire, S. and Higaki, D. : Soil and water conservation - A focus on Siwalik Hills of Nepal Himalaya, SIREC, Kathmandu, 180 p. 2012.
- d-01. 檜垣大助・日本地すべり学会東北地方太平洋沖地震受託研究グループ・富田陽子：東日本大震災における斜面変動災害分布の特徴と類型化, (社)日本地すべり学会シンポジウム「東日本大震災で発生した斜面変動—海溝型地震による巨大災害への備えに向けて」講演集, 2012.
- d-02. 檜垣大助・佐藤 剛・千葉則行・井良沢道也・若井明彦・武士俊也：2011年東北地方太平洋沖地震で発生した斜面変動の類型化, 第31回日本自然災害学会学術講演会講演概要集, 197-198, 2012.
- d-03. 高橋明久・阿部真郎・檜垣大助：計測データから見た地震時の地すべり変動, 第51回日本地すべり学会研究発表大会講演集, 68-69, 2012.
- d-04. 向井啓司・相楽 渉・上松昌勝・野宮 宏・檜垣大助：青森県葛川地すべりにおける地下水排除工の効果評価事例, 第51回日本地すべり学会研究発表大会講演集, 78-79, 2012.
- d-05. 千葉則行・檜垣大助・宮城豊彦・佐藤 剛：東北地方太平洋沖地震による軟岩の崩壊の特徴, 第51回日本地すべり学会研究発表大会講演集, 204-205, 2012.

## 萩原 守

### 藤崎 浩幸

- a-01. 齋藤朱未・藤崎浩幸：立地状況から見た個別経営型農家レストラン—東北地方を対象として—, 農村計画学会誌, vol.30 論文特集号, 297-302, 2011. 11.
- d-01. 齋藤朱未・藤崎浩幸：農家レストラン経営と地域への経済効果—東北地方の女性起業3農家レストランの事例より—, 農村計画学会春期大会学術発表会要旨集, 20-21, 2012. 4.
- d-02. 千葉慎也・藤崎浩幸：中山間地域における耕作放棄地の圃場特性と援農システム, 農村計画学会春期大会学術発表会要旨集, 22-23, 2012. 4.
- d-03. 齋藤朱未・藤崎浩幸：農村女性による農家レストラン開業とその人的関係, 農業農村工学会大会講演会発表要旨集, CD-ROM, 2012. 9.
- d-04. 藤崎浩幸・森山裕華子・齋藤朱未：H市市民参加型まちづくり1%システムと地域コミュニティ活動, 農業農村工学会大会講演会発表要旨集, CD-ROM, 2012. 9.

### 加藤 幸

- a-01. 加藤 幸・岸 知彦・佐藤江里子・溝口 勝：農家参加型モニタリングによるリンゴ栽培技術の継承, 水土の知(農業農村工学会誌), 80-9, 7-10, 2012. 09.
- a-02. 泉 完・菊地真弘・加藤 幸・東 信行：河川水を用いたヤマメ稚魚の尾部の動きと遊泳速度, 農業農村工学会論文集第80巻2号, 99-107, 2012.04.
- a-03. C.Sasaki, K.Sasaki, N.Matsuyama, A.Endo, K.Kato: Study on the qualities of spring water and precipitation in the Shirakami Mountains, SHIRAKAMI-SANCHI, Vol1, 5-14, 2012. 03.
- a-04. 加藤 幸・長利 洋・高松利恵子・武藤由子・千葉克己・溝口 勝：青森県における農地の塩分濃度モニタリング, 土壌水分ワークショップ2011論文集, 55-60, 2012. 02.
- a-05. 武藤由子・河合成直・倉島栄一・加藤 幸・千葉克己・溝口 勝：岩手県における津波被災農地の塩分濃度モニタリング, 土壌水分ワークショップ2011論文集, 44-48, 2012. 02.
- a-06. 千葉克己・加藤 徹・冠 秀昭・加藤 幸・武藤由子・溝口 勝：宮城県の津波被災農地における塩類の挙動, 土壌水分ワークショップ2011論文集, 49-54, 2012. 02.
- a-07. S.K. PAUL, C.Sasaki, N.Matsuyama, K.Kato: Effect of Percolation Pattern on Yields and Accumulation of Copper and Cadmium in the Rice Plants with Soil Dressing Models, Journal of Environmental Science and

Engineering, Volume 5, Number11, 2011, 1467-1473, 2011. 11.

- b-01. 加藤 幸：私のビジョン「協働の力」, 水土の知(農業農村工学会誌), 80-2, 136-138, 2012. 2.
- d-01. 加藤 幸・伊藤 哲・三石正一・溝口 勝：地温データを利用したリンゴ開花日予測と生産現場での利用, 平成24年度農業農村工学会大会要旨, 2011. 09.
- d-02. Masaru MIZOGUCHI, Katsumi CHIBA, Yoshiko MUTO, Koh KATO: Ubiquitous Monitoring of Soil Water and Salt Content in Paddy Fields damaged by Tsunami in Japan, International Conference of Agricultural Engineering 2012, 2012. 07.
- d-03. 加藤 幸・伊藤 哲・三石正一・溝口 勝：積雪下のリンゴ園地の気象と土壌環境の変化, 農業情報学会大会2012年度要旨, 2012. 05.
- d-04. 加藤 幸・伊藤 哲・三石正一・溝口 勝：リンゴ園地の気候変動と農家による適応策の可能性, 農業情報学会大会2012年度要旨, 2012. 05
- d-05. 加藤 幸・長利 洋・高松利恵子・武藤由子・千葉克己・溝口 勝：土壌センサを利用した被災農地における除塩モニタリング, 平成23年度農業農村工学会東北支部大会講演要旨集, 2011. 11.
- d-06. KATO Koh, CHIBA Katsumi, ITOH Tetsu, MIZOGUCHI Masaru: Monitoring of Desalinization on Tsunami-hit Farmland Using a Field Monitoring System, Fifth anniversary Memorial Symposium for Mutual Exchange Program between Faculty of Agriculture and Life Science, Hirosaki University and College of Agronomy and Biotechnology, China Agricultural University, 2011. 10.

### 角野 三好

- d-01. 山口裕介・角野三好・竹谷雄大：前面コア型フィルダムに亀裂が生じた場合の浸潤線に関する研究, 2012年度農業農村工学会大会講演会講演要旨集, 2012. 9.

### 遠藤 明

- a-01. C. Sasaki, K. Sasaki, N. Matsuyama, A. Endo and K. Kato: Study on the qualities of spring water and precipitation in the Shirakami Mountains, SHIRAKAMI-SANCHI, Vol.1, 5-14, 2012. 03.
- d-01. A. Endo, S. Mishima and K. Kohyama: Relationship between inorganic N-leaching and soil surface N-balance in Andosol and Gray lowland soil, 5th anniversary Memorial Symposium for Mutual Exchange Program between Faculty of Agriculture and Life Science, Hirosaki University and College of Agronomy and Biotechnology, China Agricultural University, 2011. 10.
- d-02. 遠藤 明：農地土壌の塩類汚染浄化に向けた取り組み, 国立大学法人弘前大学防災・日本再生シンポジウム, 2011. 11.
- d-03. 遠藤 明・三島慎一郎・神山和則：農耕地土壌間隙水のNO<sub>3</sub>-N濃度が10 mg L<sup>-1</sup>を超えない条件を満たす施肥量の算定, 2012年度農業農村工学会大会講演会講演要旨集, 442-443, 2012. 09.

## 【生物共生教育研究センター】

## 伊藤 大雄

- a-01. 伊藤大雄・石田祐宣：落葉果樹園における様々な日別融雪熱量予測式. 生物と気象, 12: 36-45, 2012.
- d-01. 伊藤大雄・石田祐宣：一般気象観測データによる果樹園の日別融雪潜熱量の推定(続報). 東北の農業気象, 56: 24-25, 2012. (2011年11月7日, 山形市)
- d-02. 伊藤大雄・上原子毅・泉 荘・ニツ森祐里・横沢賢一郎：リンゴ有機栽培における食酢および酸性水の病害防除効果. 第65回北日本病害虫研究発表会, 2012年2月16～17日.
- d-03. 庄司 優・石田祐宣・伊藤大雄・石田 清・M.L. Lopez C.・高橋啓太・戎 信宏・高橋恵次・中北英一・田中賢治・山口弘誠：白神山地ブナ林の二酸化炭素収支と季候の関係. 日本農業気象学会2012年全国大会講演要旨：92, 2012年3月15日(堺市).
- d-04. 石田祐宣・徳永真央・伊藤大雄・石田 清・庄司 優・高橋啓太・蓮沼洋志・戎 信宏・高橋恵次・中北英一・田中賢治・山口弘誠：白神山地ブナ林における蒸発散量の季節変化特性. 日本気象学会2012年度春季大会講演予稿集：141, 2012年5月26日(つくば市).
- d-05. 石田祐宣・庄司 優・蓮沼洋志・高橋啓太・徳永真央・伊藤大雄・石田 清・戎 信宏・高瀬恵次・中北英一・山口弘誠・田中賢治：白神山地ブナ林における水・炭素収支の季節変化. 水文・水資源学会2012年度研究発表会要旨集：160-161, 2012年9月26-27日(広島市).
- f-01. 伊藤大雄：日本でリンゴの有機栽培は可能か？ 公開講座「リンゴを科学する」(生物共生教育研究センター主催) 講演要旨：29-36, 2011年12月5日.

## 姜 東鎮

- a-01. Kang, D.J., Y.J. Seo, T. Saito, H. Suzuki, Y. Ishii: Uptake and translocation of cesium-133 in napiergrass (*Pennisetum purpureum* Schum.) under hydroponic conditions. Ecotoxicol. Environ. Saf., 82: 122-126, 2012.
- a-02. 濱野琴美・石井康之・山野明日香・森康太郎・井戸田幸子・姜 東鎮・西脇亜也：ネピアグラス (*Pennisetum purpureum* Schumach) のカドミウム集積能力の推定およびカドミウム汚染土壌の浄化に向けた乾燥技術の開発. 日本作物学会九州支部会報 78: 21-24, 2012.
- a-03. Kang, D.J., K. Futakuchi, Y.J. Seo, P. Vijarnsorn, R. Ishii: Evaluation of Al-tolerance on upland and lowland types of NERICA lines under hydroponic conditions. J. Crop Sci. Biotech., 15: 25-31, 2012.
- a-04. Hamano, K., Y. Ishii, D.J. Kang, A. Yamano, K. Mori, S. Idota, A. Nishiwaki: Assessment of potential cadmium uptake for phytoextraction activity in solution cultures of napiergrass. Proc. 4<sup>th</sup> Japan-China-Korea Grassland Conference, 62-63, 2012.
- a-05. Kang, D.J., K. Futakuchi, Y.J. Seo, P. Vijarnsorn, R. Ishii: Relationship of Fe-tolerance to morphological changes in roots in upland NERICA lines under Fe-treated hydroponic condition. J. Crop Sci. Biotech., 14: 311-315, 2011.
- a-06. Kang, D.J., Y.J. Seo, K. Futakuchi, P. Vijarnsorn, R. Ishii: Effect of aluminum toxicity on flowering time and grain yield on differing in Al-tolerance rice genotypes. J. Crop Sci. Biotech., 14: 305-309, 2011.
- d-01. Ishii, Y., K. Hamano, D.J. Kang, S. Idota, A. Nishiwaki: Phytoremediation Activity and Organic Livestock Farming in C4-napiergrass Cultivation in Kyushu, Japan. 2<sup>nd</sup> Ann. World Congress Agric. Biotech., Dalian, China, 2012.
- d-02. 濱野琴美・石井康之・井戸田幸子・中原智晃・西脇亜也・姜 東鎮：カドミウム汚染畑土壌のネピアグラス (*Pennisetum purpureum*) 栽培による浄化特性の検討. 日本作物学会第234回講演会(東北大学), 2012.
- f-01. 姜 東鎮：C<sub>4</sub>植物ネピアグラスによるセシウム除去可能性と今後の展望. 福島復興のための放射能科学者会議準備会セミナー(福島県農業総合センター), 2012.

## 松本 和浩

- a-01. 竹村圭弘・黒木克翁・松本和浩・森口卓哉・中田 昇・田村文男. ニホンナシ系統 TH3 と少低温要求性タイワンナシ横山の F1 における自発休眠特性. 園芸学研究. 11: 181-187. 2012.
- a-02. Jindo, K., K. Sudo, K. Matsumoto, C. García, T. Sonoki and M.A. Sanchez-Monedero. Chemical and biochemical characterisation of biochar-blended composts prepared from poultry manure. Bioresource Technology. 110: 396-404. 2012.

- a-03. Jindo, K., M.A. Sanchez-Monedero, T. Hernandez, C. Garcia, T. Furukawa, K. Matsumoto, T. Sonoki, F. Bastida. Biochar influences the microbial community structure during manure composting with agricultural wastes. *Science of the Total Environment*. 416: 476-481. 2012.
- a-04. 松本和浩・塩崎雄之輔. リンゴにおける果台枝の長短および果台枝への夏季剪定が果実品質に及ぼす影響. *園芸学研究*. 11: 59-64. 2012.
- a-05. Lee, C-H., J-H. Min, T-I. Kim, J-G. Kim, K. Matsumoto, D-Y. Kim and Y-S. Hwang. Comparison of wall polymers among three genetically closely related strawberry cultivars with different fruit firmness. *Hort. Environ. Biotechnol.* 52: 581-589. 2011.
- a-06. 松本和浩・向後智陽・須藤宏樹・神藤恵史・園木和典・Sanchez-Monedero, M.A. 木炭を製造過程で混入して作製した堆肥がナガネギの生育に及ぼす効果. *木質炭化学会誌*. 8: 18-23. 2011.
- a-07. 平松 渚・松本和浩・田淵俊人. 白神山地に自生するノハナショウブに関する研究(第3報)素波里湖に自生する多様な変異体とその生態. *白神研究*. 8: 40-49. 2011.
- d-01. 小林 達・向後智陽・荒川 修・辻 渉・安 萍・松本和浩. NaCl処理がリンゴ台木種の生育に及ぼす影響. *日本園芸学会春季大会(大阪府立大学)*. 2012.
- d-02. 松本和浩・向後智陽・小林 達・藤田知道. リンゴ芯カビ症の発生を抑制する効果的な方法について. *日本園芸学会春季大会(大阪府立大学)*. 2012.
- d-03. 向後智陽・小林 達・神藤恵史・園木和典・Sanchez-Monedero, M.A.・松本和浩. 有機性廃棄物より製造した堆肥への木炭の添加がコマツナの生育に及ぼす効果. *日本園芸学会春季大会(大阪府立大学)*. 2012.
- d-04. 松本和浩・鳥居保邦・定延葉子・田淵俊人・田村文男. ノハナショウブの変異性に関する研究(第32報)本州最北端・青森県大間湿原におけるノハナショウブの外部形態特性について. *日本園芸学会春季大会(大阪府立大学)*. 2012.
- d-05. 佐藤早希・向後智陽・小林 達・藤田知道・松本和浩. リンゴ‘こうこう’の正常果および成熟不良果の果実特性の比較. *日本園芸学会秋季大会(福井県立大学)*. 2012.
- d-06. 小林 達・向後智陽・藤田知道・佐藤早希・松本和浩. 果肉の赤いリンゴ‘紅の夢’の果皮に発生する斑点状障害は袋かけにより抑制できる. *日本園芸学会秋季大会(福井県立大学)*. 2012.
- d-07. 向後智陽・小林 達・藤田知道・佐藤早希・前多隼人・荒川 修・松本和浩. 果肉の赤いリンゴ‘紅の夢’、‘御所川原’の果肉着色に及ぼす光の影響. *日本園芸学会秋季大会(福井県立大学)*. 2012.
- d-08. 定延葉子・松本和浩・田淵俊人. ノハナショウブの変異性に関する研究(第33報)NaCl処理がノハナショウブにおける根や葉のATPase活性に及ぼす影響. *日本園芸学会秋季大会(福井県立大学)*. 2012.
- d-09. 黒木克翁・寺谷直子・丸森啓紀・竹村圭弘・松本和浩・松本辰也・田村文男. セイヨウナシ花粉を用いた低温条件下でのニホンナシの結実性向上. *日本園芸学会秋季大会(福井県立大学)*. 2012.
- e-01. 松本和浩・安 萍. リンゴおよびナシ台木種の耐乾性および耐塩性に関する生理学的研究. *平成23年度鳥取大学乾燥地研究センター共同利用研究成果報告書*. 2012.
- e-02. 松本和浩. 希釈海水を用いたニホンナシ, リンゴ栽培方法の確立 ～耐塩性台木の選抜とそのメカニズムの解明～. *平成23年度 ソルト・サイエンス研究財団助成研究報告書*. 2012.
- e-03. 松本和浩. 果肉まで赤い新規リンゴ品種‘紅の夢’の着色安定化技術開発と機構解明 ～着色に光は必要か?～. *平成23年度 弘前大学若手萌芽研究実績報告書*. 2012.
- f-01. 松本和浩・上平好弘. 弘大育成『赤い果肉のリンゴ系統』を用いた農商工連携の新展望. *北東ライフサイエンス部門(NLU)研究成果技術移転セミナー*. 帯広市. 2011.
- f-02. 松本和浩・上平好弘. 果肉まで赤いりんご新品種の育成. *北東北地域資源フォーラム in 岩手*. 盛岡市. 2011.
- f-03. 松本和浩・上平好弘. 果肉まで赤いりんご新品種の育成. *第5回北東北地域イノベーションフォーラム*. 青森市. 2011.
- f-04. 松本和浩・上平好弘. 果肉まで赤いりんご新品種「紅の夢」の育成. *アグリビジネス創出フェア2011*. 千葉市. 2011.
- f-05. 松本和浩. 話題提供 アグリビジネス創出フェア2011 赤肉りんごに対する世間の注目度は? りんごの道. 2: 14-17. 2012.
- f-06. 松本和浩. りんご栽培生理学講座① 夏季剪定時の果台枝の扱いについて. *りんごの道*. 2: 18-19. 2012.
- f-07. 松本和浩. 弘前大学における次世代リンゴ新品種の育成と地域ブランド化に向けた総合的研究. *弘前市企業ミーティング*. 弘前市. 2012.
- f-08. 松本和浩. 「紅の夢」の特性と普及・研究の現状. *弘前大・平川市共同研究「地域振興のための官学連携モデル構*

築に関する研究」現地見学および説明会。藤崎町。2012。

- f-09. 松本和浩. 書評 塩崎雄之輔著「図解 リンゴの整枝せん定と栽培」. りんごの道. 3: 9-10. 2012.
- f-10. 松本和浩. りんご栽培生理学講座② チッソの働きと果実に与える影響および夏場のチッソ管理. りんごの道. 3: 34-37. 2012.
- f-11. 松本和浩. りんごってどうやって大きくなるの? リンゴの摘果. 生物共生教育研究センター主催親子体験学習講師. 2012.
- f-12. 松本和浩. 弘前大学附属小学校りんご栽培体験学習講師. 2012.
- f-13. 松本和浩. 地元産良質堆肥を使ってエコで元気なブランド野菜作り. 青森県中小企業家同友会. 津軽支部例会. 2012.

## 房 家琛

- a-01. K Kabashima, D Yoshinaga, JC Fang, M Matsuzaki and H Suzuki: Cell Cycle-dependent Dynamics of Cytoskeleton Involving Mitochondrial Redistribution in Hamster Embryos. Reproduction in Domestic Animals. [In press]
- a-02. Fang JC, Matsuzaki M, Suzuki H, Cai YM, Horiguchi K, Takahashi T: Effects of lactic acid bacteria and urea treatment on fermentation quality, digestibility and ruminal fermentation of roll bale rice straw silage in wethers. Grassland Science. 58 (2): 73-78, 2012.
- a-03. Hiroyuki S, Koyama K, Kabashima K, JC Fang, Masatoshi M: Temporary inhibition of germinal vesicle breakdown by kinase inhibitor Y-27632 is detrimental to oocyte maturation. Journal of Mammalian Ova Research. 28: 126-130, 2011.
- a-04. Sonoki T, Suto K, Mizumoto H, Furukawa T, Kimura K, Fang JC: Characterization of biochar-blended composting for carbon offset. Transstion of the Materials Research Society of Japan. 36 (4): 581-584, 2011.
- d-01. 房 家琛・木村 中・森内晴也・近藤真大・高橋信二・鈴木裕之・松崎正敏：リンゴ粕を活用した混合発酵飼料給与が黒毛和種去勢牛の肥育成績に及ぼす影響。肉用牛研究会第49回大会，（山形）2011。
- d-02. 木村 中・小笠原陵・白戸 賢・高橋信二・米内美晴・柴 伸弥・房 家琛・鈴木裕之・松崎正敏：リンゴ粕混合サイレージ給与肥育が綿羊の血中脂質成分濃度および脂肪酸組成に及ぼす影響。日本畜産学会第115回大会（名古屋大学），2012。
- d-03. 小澤那奈・茶畑 舞・房 家琛・檜野 栞・松崎未幸・秋元慶彦・鈴木裕之・松崎正敏：綿羊妊娠後期の低蛋白給与が血液成分および分娩成績に及ぼす影響。東北畜産学会第62回大会（秋田），2012。
- d-04. 柴 伸弥・松崎正敏・房 家琛・鈴木裕之・今成麻衣・米内美晴・渡辺 彰：リンゴ粕アルコール発酵飼料の給与が日本短角種肥育牛の腰最長筋の肉質に及ぼす影響。東北畜産学会第62回大会（秋田），2012。
- d-05. 梶島克哉・房 家琛・松崎正敏・鈴木裕之：アクチン繊維がハムスター卵熟成過程のミトコンドリアを再配置する。東北畜産学会第62回大会（秋田），2012。
- d-06. 泉谷眞実・房 家琛・石塚哉史・吉仲 玲・松崎正敏：中国における果実バイオマスの利活用システムに関する事例分析—りんごジュース製造副産物のリサイクル経路の日中比較研究—。2012年度東北農業経済学会宮城大会（東北大学）2012。
- d-07. 房 家琛・木村 中・森内晴也・近藤真大・高橋信二・鈴木裕之・松崎正敏：リンゴ粕混合発酵飼料を多給した黒毛和種経産牛と日本短各種去勢牛の肥育成績。肉用牛研究会第50回大会，（宮崎）2012。

## 農学生命科学部学術報告編集委員会

委員長：大河 浩（生物学科）  
石黒 誠一（分子生命科学科）  
佐野 輝男（生物資源学科）  
前田 智雄（園芸農学科）  
遠藤 明（地域環境工学科）

2013年2月22日 印刷

2013年2月28日 発行

編集兼発行者 **弘前大学農学生命科学部**  
〒036-8561 弘前市文京町3

印刷所 **やまと印刷株式会社**  
〒036-8061 弘前市神田4丁目4-5

*Published by*

Faculty of Agriculture and Life Science, Hirosaki University  
3 Bunkyo-cho, Hirosaki-shi, Aomori-ken 036-8561, Japan  
28 February 2013

*Printed by*

Yamato Printing Co., Ltd.  
4-4-5 Kanda, Hirosaki-shi, Aomori-ken 036-8061, Japan  
22 February 2013

**BULLETIN OF  
THE FACULTY OF AGRICULTURE AND LIFE SCIENCE, HIROSAKI UNIVERSITY**

---

**Number 15**

**February, 2013**

---

CONTENTS

Wataru SAITOU, Masami IZUMIYA : Characteristics of Method for Utilization  
of Rice Straw in Snowy Cold Region 1 (5)\*

---

\*English Summary

Asunaro Prize 2011 7

Lists of Published Research Works of the Faculty of Agriculture and Life Science,  
Hirosaki University, 2011 (October) — 2012 (September) 13